



令和6年能登半島地震災害における 群馬県災害派遣福祉チーム (DWAT) 活動報告書



令和7年3月

群馬県・群馬県社会福祉協議会
群馬県災害福祉支援ネットワーク

目次

| | |
|--|----|
| 発刊によせて | 1 |
| 令和6年能登半島地震災害における 災害派遣福祉チーム（DWAT）の活動概要 | 3 |
| 群馬県災害派遣福祉チームの活動 | |
| 1月の活動 | 22 |
| 2月～3月の活動 | 28 |
| 4月の活動 | 37 |
| 5月～6月の活動 | 42 |
| 支援活動を振り返って | 49 |
| 震災の影響を受けた地域の様子 | 53 |
| 活動派遣者一覧 | 58 |

発刊に寄せて



群馬県 健康福祉部

部長 中島 高志

能登半島地震において、ぐんまDWA Tとして、被災地に派遣されたチーム員の皆様におかれましては、被災者に寄り添った支援活動に御尽力いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。また、業務多忙の中、派遣に御協力をいただきました各社会福祉施設・団体の皆様に、厚く御礼申し上げます。

群馬県では、平成28年度に群馬県・群馬県社会福祉協議会・関係団体と「群馬県災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定書」を締結して以来、群馬県災害福祉支援ネットワークの事務局である群馬県社会福祉協議会を中心に、ぐんまDWA Tチーム員の養成や専門性を向上させる研究会を組織するなど、平時からチームの機能強化に向けた取組を行って参りました。

こうした平時からの地道な取組が、能登半島地震における活動に活かされ、ぐんまDWA Tは金沢市内に設置された1.5次避難所においてチームリーダーとして被災者支援にあたり、1月12日から6月30日までの約6ヶ月間という過去最長の支援活動を実施しました。

今回の活動報告は、発災直後の緊急期から撤収に至る復興期まで、各フェーズにおける福祉支援活動についてまとめたものであり、大規模災害発生時におけるDWA T活動の参考になるとともに、今後の避難所等における福祉的支援のあり方を示す貴重な資料になるものと考えております。

ぐんまDWA Tは、被災地への派遣ごとに新たな気づきを得て、次の発災時に、被災者のために何ができるかを考え、活動を実施してきました。今回の能登半島地震における活動実績が、本県の災害福祉支援体制の更なる充実につながることを祈念いたしまして、発刊にあたっての御挨拶とさせていただきます。

発刊に寄せて



群馬県社会福祉協議会

会長 川原 武男

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、多くの人命や家屋、ライフラインへの甚大な被害をもたらし、さらに、9月には追い打ちをかけるように、奥能登豪雨による被害が発生するなど、発災から1年3か月が経過した、今なお、現地では復旧・復興に向けた懸命な支援活動が続いています。

本会では、群馬県、群馬県災害福祉支援ネットワーク構成団体と連携して、令和6年1月8日に群馬県災害派遣福祉チーム(ぐんまDWAT)の先遣隊を派遣し、以降、DWAT活動が収束する6月30日までの間、今回、初めて設置された金沢市内の1.5次避難所の立ち上げから、運営、そして、全国すべての都道府県から派遣されたDWATのリーダーとして、その調整にあたるなど、まさに、災害福祉支援の中核を担って参りました。

さらに、七尾市や志賀町、輪島市等への巡回支援と並行しながら、地元・石川DWATに寄り添った伴走型の支援活動を続けるとともに、1月6日より職員1名をDWAT活動のアドバイザーとして派遣し、多様な支援チームとの連携や要配慮者の避難生活支援活動のサポートなど、本県の活動は質・量ともに全国から高く評価されております。

この長期間の支援活動に際し、DWATメンバーの派遣にご尽力・ご協力いただきました県内の社会福祉施設・事業所の経営者の皆様をはじめ、関係者の皆様に改めて感謝と御礼を申し上げます。

今回の能登半島地震を踏まえて、災害関連法に「福祉サービスの提供」が盛り込まれることとなり、今後、DWATの役割は、保健・医療との更なる連携や、在宅、車中泊、施設等、避難所以外への活動範囲の拡大など、その担う役割はますます大きなものとなって参ります。

この6か月の活動につきましては、活動報告会でも紹介させていただきましたが、この度、活動報告書としてまとめさせていただきました。

今回の私たちの実績が、今後の災害時の福祉支援活動に向けての取組において参考になれば幸いです。

一刻も早い、現地の復旧・復興を心より祈念しております。



令和6年能登半島地震災害における 災害派遣福祉チーム（DWAT）の活動概要

令和6年能登半島地震の概要と支援チームの動き

令和6年（2024年）1月1日16時10分、石川県能登地方においてマグニチュード7.6（暫定値）の地震が発生し、石川県の志賀町及び輪島市で震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6以上の揺れを観測しました。

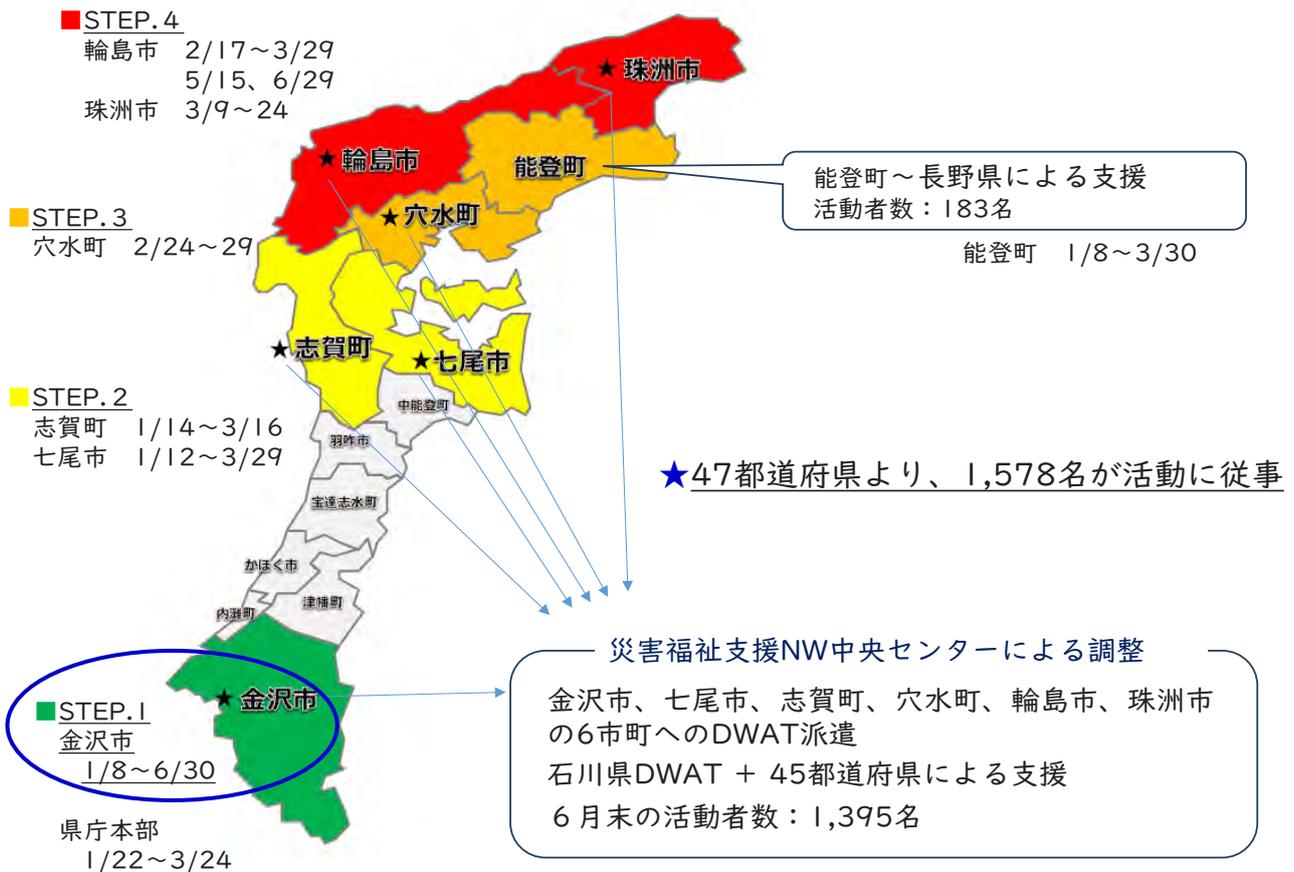
能登半島地震では、多数の被災者が避難し、避難者数は最大5万人以上、被災自治体が開設した避難所数は最大1,500か所以上になりました。

避難所の良好な生活環境を確保するため、仮設トイレ、マスク、暖房器具、消毒液、段ボールベッド等の必要な機材・物資等をプッシュ型での支援が行われたほか、避難所における健康管理や感染症対策を進めるため、厚生労働省がDMAT（災害派遣医療チーム）やDHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）、保健師等のチームを派遣しました。

さらに、避難所運営のノウハウや要配慮者を含めた避難生活者の健康二次被害の防止と安定的な日常生活への移行を支えるため、DWAT（災害派遣福祉チーム）が各地域の避難所に派遣されました。

加えて、石川県においては、ライフライン環境の整ったホテルや旅館への二次避難により、被災者が安心できる生活環境の確保を進める動きが取り入れられました。

令和6年能登半島地震におけるDWAT活動の状況



令和6年能登半島地震におけるDWAT活動の特徴

- ① **災害福祉支援ネットワーク中央センターが調整役を担った**
 - ・ 地元を支えるために必要な視点（被災地、被災者への支援）
 - ・ 47都道府県全てのDWATが活動に参加（活動経験のある県が初派遣の県をサポート）
- ② **保健医療福祉調整本部との連携が活動の鍵となった**
 - ・ 石川県庁に設置された 調整本部と県DWAT本部の連携・調整
 - ・ 各地域に設置された 地域調整本部と活動チームの役割調整
- ③ **フェーズの変化に合わせた柔軟な活動展開が必要となった**
 - ・ 避難生活の長期化にともなう 避難者の退所、避難所の閉所に向かう際、状態変化に合わせた 活動の縮小、代替等
- ④ **災害時の福祉支援活動の整理が求められた**
 - ・ 施設等への 介護職員応援派遣、被災高齢者等把握事業による 在宅訪問、被災者見守り・相談支援事業による仮設住宅等への 見守りやささえあい活動とDWATの役割の違い

STEP. 1、2 初動体制整備とチーム配置について



▲石川県庁でのブリーフィングの様子

(1) 石川県庁・石川県社協との初動対応に関する調整 令和6年1月6日

○石川県庁にて情報共有・体制検討

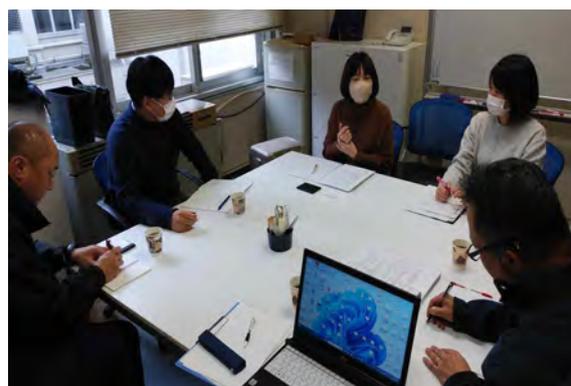
- ①被害の大きい輪島市、珠洲市からDWAT派遣希望の声
- ②登録員に呼びかけてみたもののエントリーは15名程度（2日前は4名程）
- ③新たに1.5次避難所を金沢市に設置し、能登北部の要配慮者を受け入れる。

○石川県社協にて情報共有・協力依頼

- ①施設への物資支援等を検討中
- ②被害状況確認ができない施設も多いことへの対応
- ③DWATの派遣調整を手伝う場合のノウハウの提供等

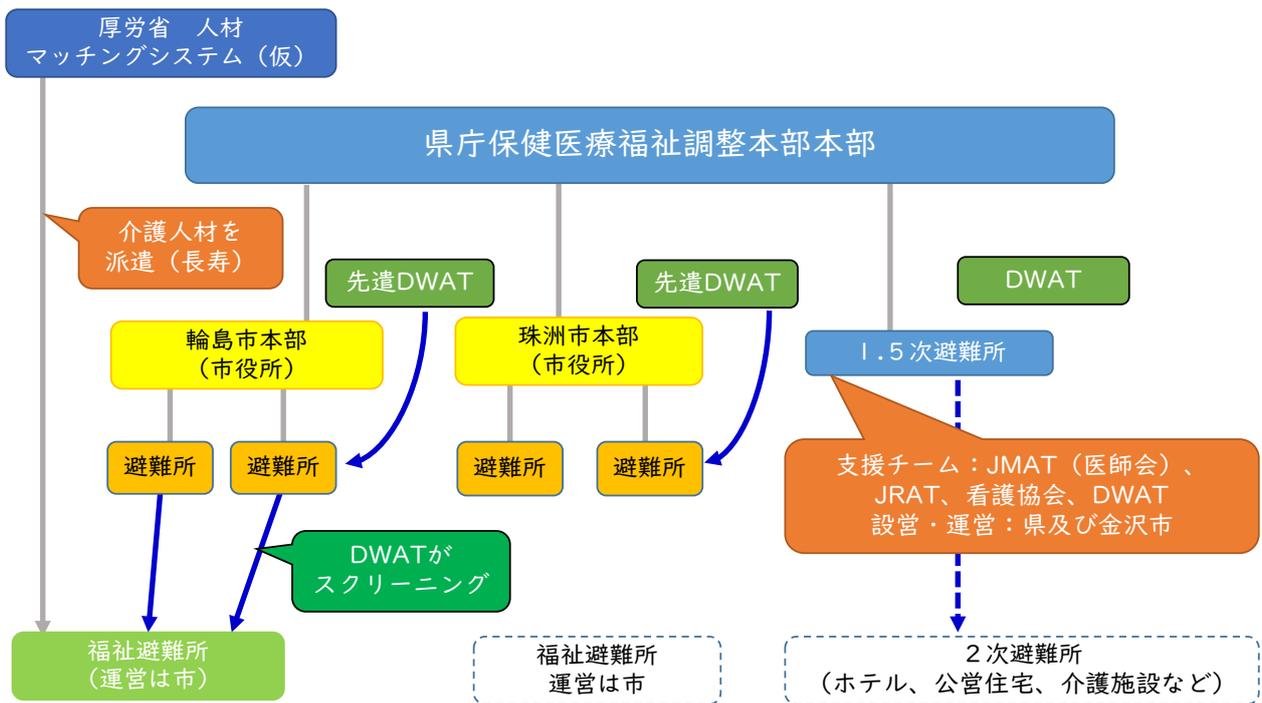


▲石川県庁での体制検討



▲石川県社協への協力要請

発災後、初期に求められたDWATミッションの概要イメージ



※石川県庁厚生政策課提供

1.5次避難所の開設について

<概要>

- 能登北部の要支援者（高齢者 {65歳以上}、妊婦、乳幼児、障害者）を被災地の1次避難所から、ライフラインの整った金沢市内の1.5次避難所に搬送
- スクリーニングした上で、ホテル等の2次避難所（妊婦や集団生活できない精神疾患患者等）や病院（医療が必要になった人）に搬送

<実施期間>

○始期：1/8（月）～ 終期：被災地の仮設住宅が整備されるまで

<場所>

- 1.5次避難所：いしかわスポーツセンター メインアリーナ
- 2次避難所：ホテル・旅館、公営住宅、民間賃貸住宅、介護施設等



被災地



1.5次避難所 定員：400人
(いしかわスポーツセンター)

スクリーニング (ホテル・旅館、公営住宅、介護施設等)



2次避難所



病院

(2) 七尾エリアへの先遣調査 とDWAT配置 令和6年1月7日～

- 医療チームの活動拠点（七尾市・公立能登総合病院）へアプローチ
- ①医療チームはここを拠点に能登北部エリアへの支援を展開している。
 - ②避難所の巡回及び情報整理については、日赤の医療チームが担当。
 - ③福祉施設の被害状況確認及び情報整理、応援職員の必要性等の整理を担当する医療チームも存在。
 - ④七尾市、志賀町の避難所においても、福祉ニーズの高そうな避難所が何カ所かあることを確認。
 - ⑤STEP.2エリアとして、活動経験のある京都府、岡山県、静岡県の3府県に近隣の富山県、福井県、滋賀県の3県を合わせ、6府県・3チームを配置。



▲公立能登総合病院



▲七尾市内の避難所



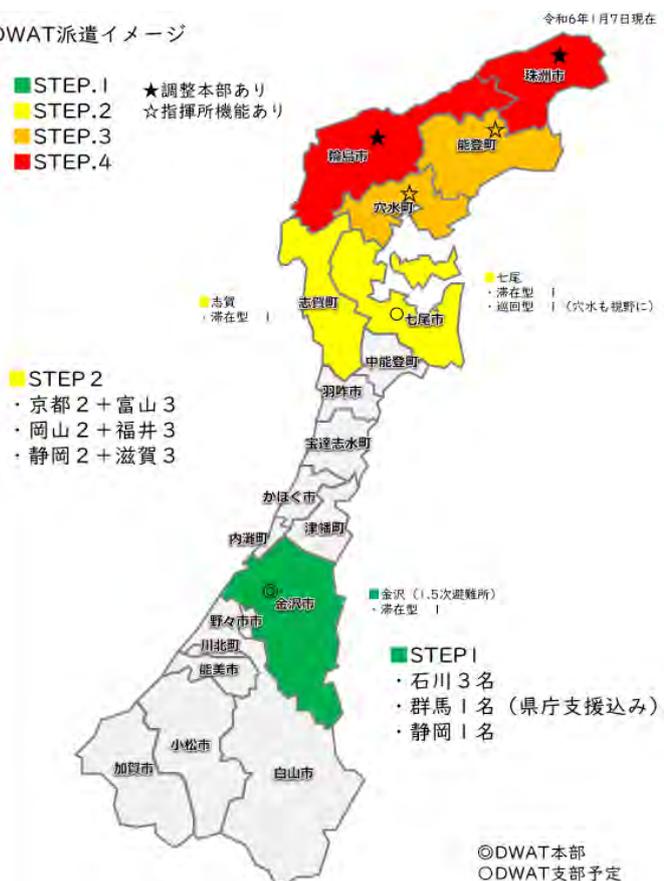
▲避難所担当の日赤の医療チームより、七尾市、志賀町の避難所情報をヒアリング



▲医療チームより、奥能登地域の状況説明を受ける

DWAT派遣イメージ

- STEP.1 ★調整本部あり
- STEP.2 ☆指揮所機能あり
- STEP.3
- STEP.4



(3) 「1.5次避難所」立上・運営支援 令和6年1月7日～8日

○1.5次避難所開設前の体制整備

開設前日の夜、DMAT、県行政と福祉的避難所としてのイメージ共有、様式の再整理、配慮食の手配等の調整を行ったほか、入退所情報の整理と退所後の見守り体制についても提案し、検討を行った。



▲NPO等により設置されたテント



▲石川県庁、DMATと運営の打ち合わせ

○石川DWATの初陣

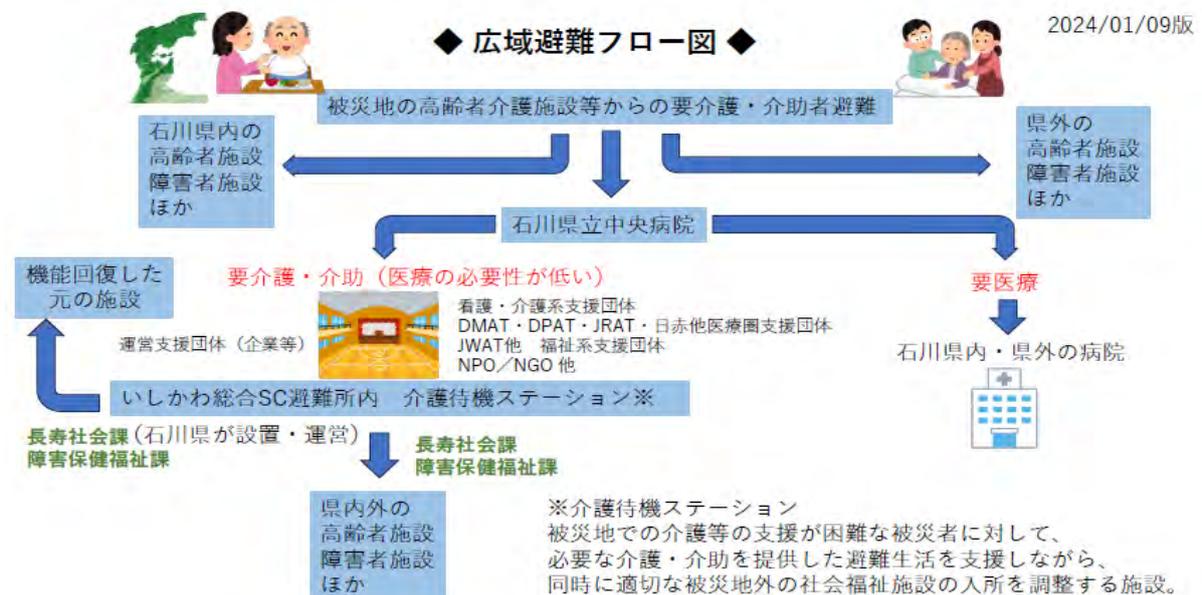
- ・当日のみの参加者を含め、7名が参加。
事務局（県・県社協）から2名が参加。
 - ・県庁にてブリーフィングを実施してから会場入り。
- ※活動のサポート役として、活動経験の京都府、静岡県、群馬県から中核メンバーを各1名、招集して配置

(4) 「介護待機ステーション」の設置

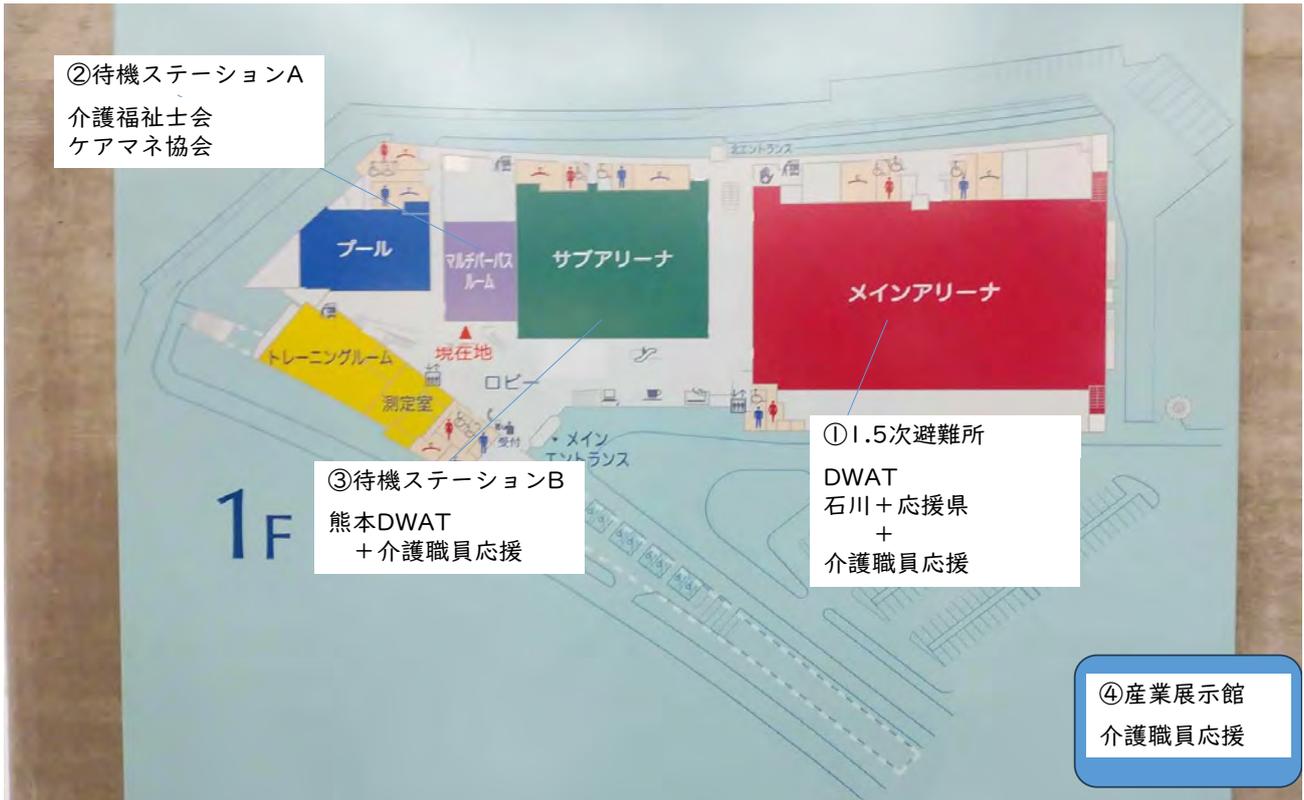
令和6年1月9日

○能登北部エリアの福祉施設への支援策として

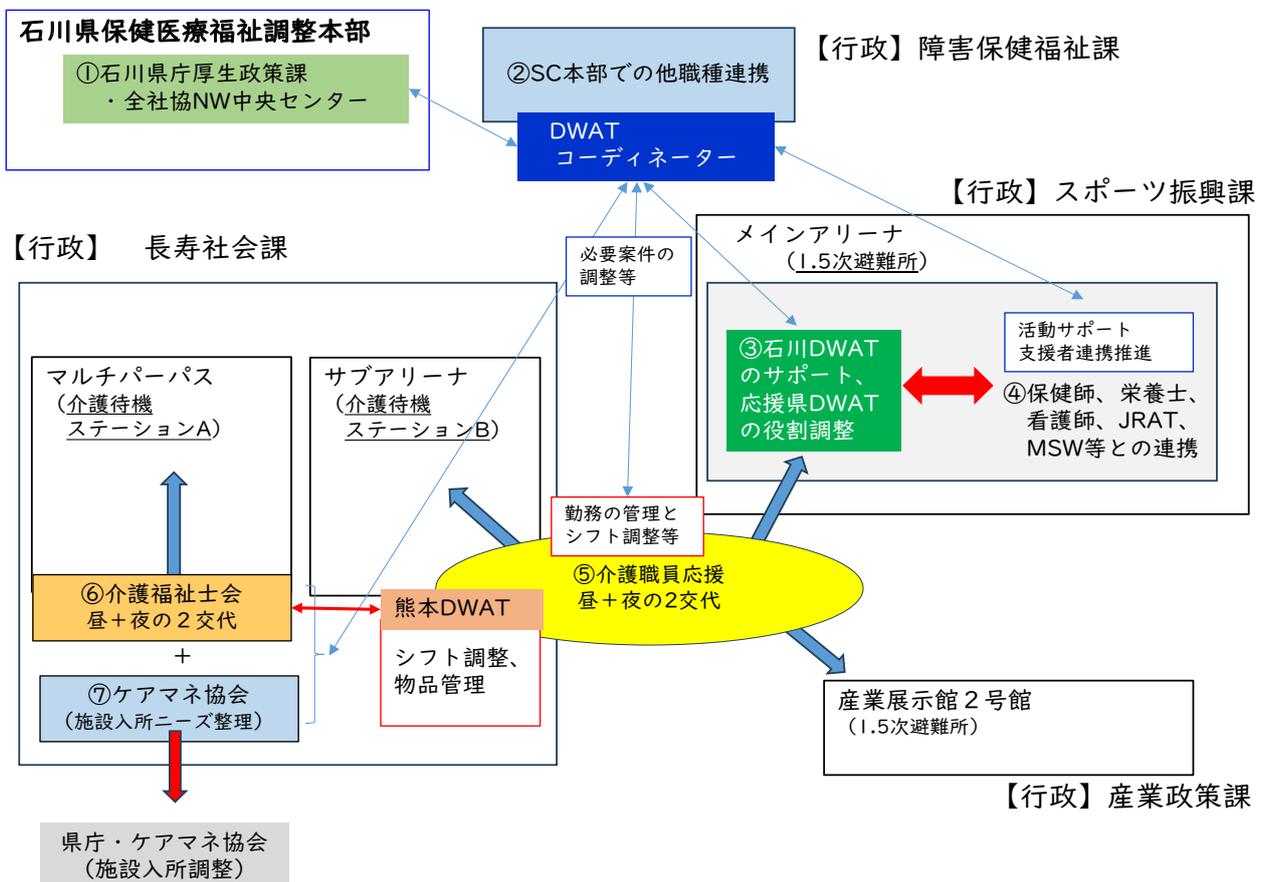
- ・ライフライン（上下水道、電気）が復旧しない
- ・介護職員も被災している
- ・食事や衛生用品も限りがある
- ・利用者をライフラインの安定している場所に一次的に移し、二次避難先を調整



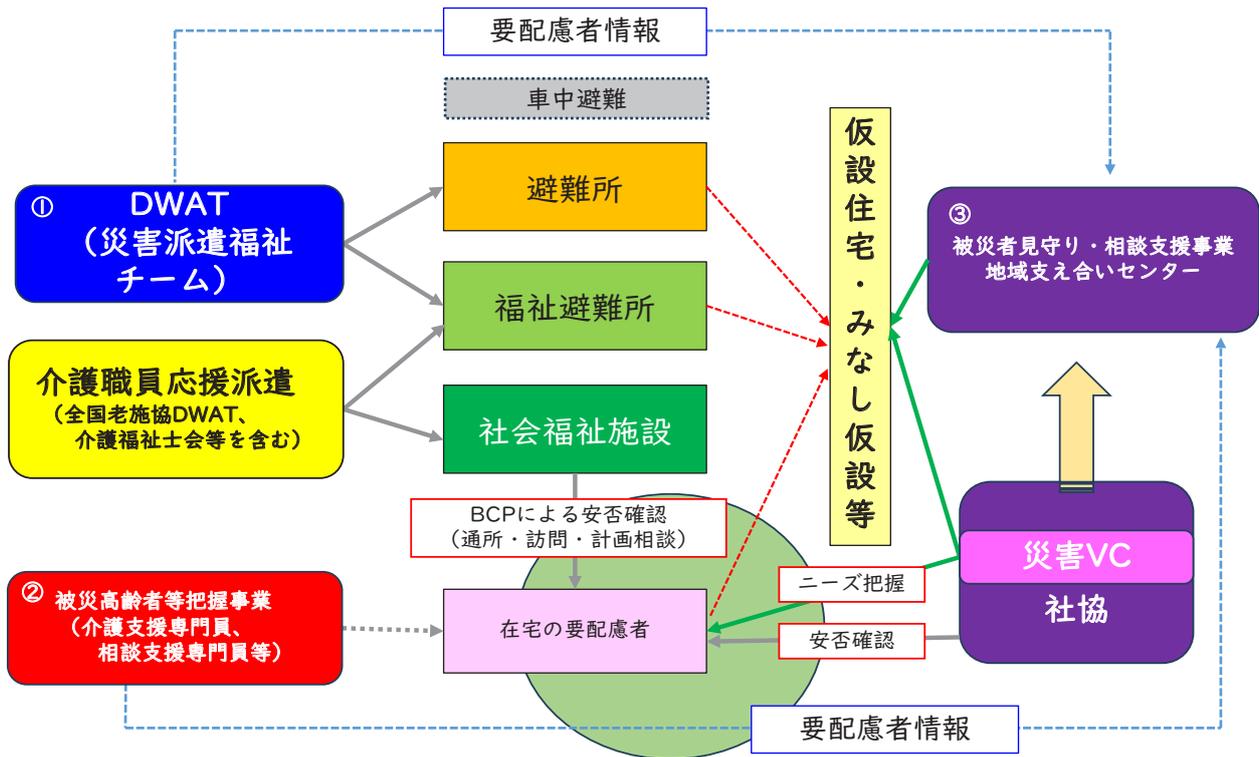
4つの避難所（①～④）への福祉支援活動の調整が求められた



1.5次避難所におけるDWATコーディネーターの役割（イメージ）



● 災害福祉支援活動の展開にあたって～DWATの役割



※福祉専門職が関わる支援体制として、DWATによる避難所での要配慮者への相談支援①、介護支援専門員や相談支援専門員等による在宅のアプローチでの相談支援②から、地域支え合いセンター③へと切れ目なく支える体制づくりが重要。

● 石川DWATと心を一つに……



■ 活動上の注意（応援都道府県と共有したこと）

- ① 応援都道府県チームの役割は、地元を支えること。
- ② 活動展開に際しては、保健医療福祉調整本部、行政の管理者、医療・保健等の支援チームと連携した上で行うこと。
- ③ 被災者へのアセスメントは、保健師が核となって実施するため、保健師との情報共有と調整を行うこと。
- ④ 活動日報は、原則、石川DWATの様式を使用し、石川DWATが活動報告に転用できるよう配慮すること。
- ⑤ 被災者、被災地の心情等に配慮して、写真撮影は遠慮すること。

★石川DWATが大切にしている7項目を、外部支援者として実現していく！



STEP.3 穴水町でのDWAT活動について



▲穴水町保健医療福祉調整本部にて

(1) 穴水町の状況

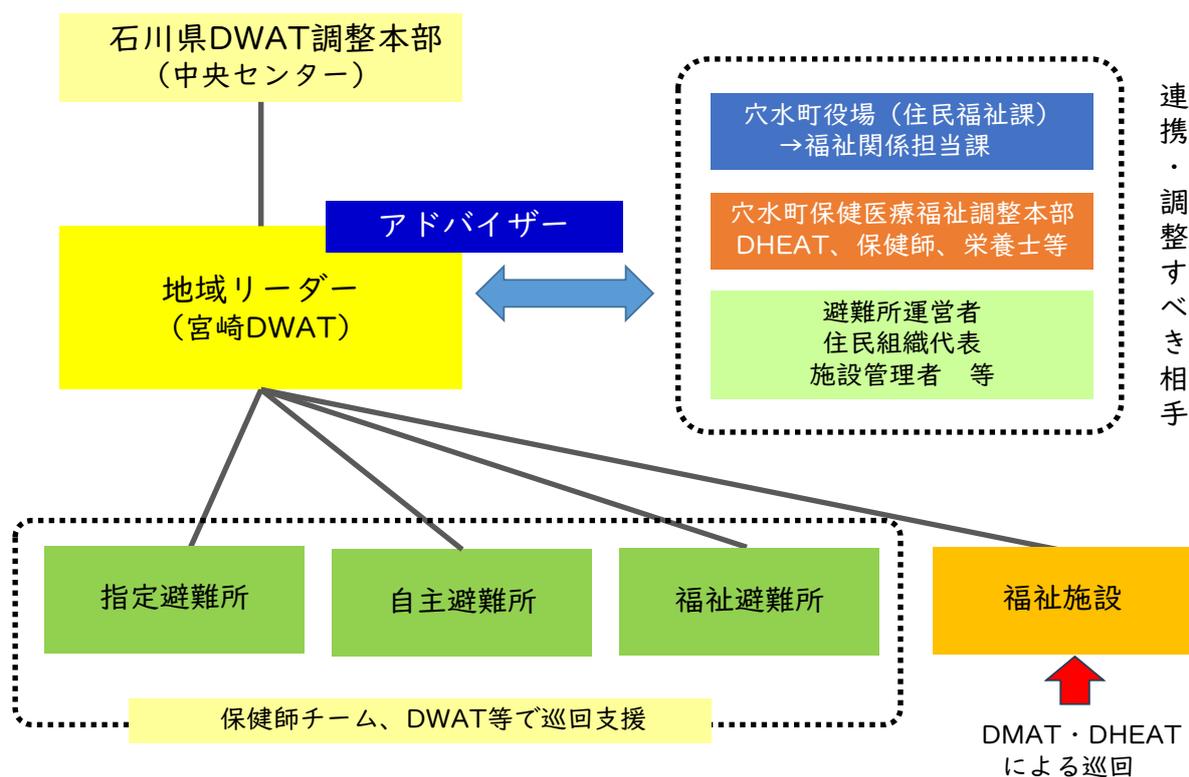
支援調整：2/19、2/20
活動期間：2/24～2/29
支援方法：巡回型支援



- ①人口8,455人、3,768世帯
- ②避難者数 654名【2/21現在】
- ③避難所数 24ヶ所【2/21現在】
- ④宮崎DWAT、茨城DWATが巡回支援を行った避難所 14か所
- ⑤穴水町保健医療福祉調整本部での把握団体【2/24現在】
 - ・DHEAT（保健所） ・J-MAT（医師会） ・JDAT（歯科医師）
 - ・DMAT（災害医療支援チーム） ・JVOAD（ボランティア）
 - ・県復興生活再建支援チーム ・JDA-DAT（栄養士会）
 - ・KISA2隊（医療介護集団） ・DWAT（福祉）

が調整本部を拠点に活動を展開

(2) 体制図 (2月20日～)



(3) DWATが巡回支援を行った避難所情報等

| 避難所 | 避難者数 | 状況等 |
|-----------------|-------|--------------------------------|
| 住吉公民館 | 12～14 | ・施設希望の高齢者あり |
| プルート | 92 | ・医療チームの介入と社協併設のため、必要時に支援する |
| 旧兜小学校 | 38 | ・避難生活問題なし、仮設・自宅に戻ってからの自立支援課題あり |
| 穴水保健センター | 20 | |
| 林業センター | 30 | |
| 川内集会所 | 16 | ・高齢化率高い、床での生活(寝食共に)が長い |
| 文化センター | 28 | |
| 丸山(あすなろファーム作業所) | 12+4 | |
| 下唐川集会所 | 14 | ・仮設住宅の目途あり |
| 曾山集会所 | 1 | ・1月末閉鎖予定だったが1名残(見守り継続) |
| 志ヶ浦コミュニティセンター | 3 | ・自主避難1世帯のみ問題なしのため終了 |
| 小又地区コミュニティセンター | 6 | ・ADL低下傾向の高齢者あり |
| 新崎集会所 | 8 | ・要配慮者は施設入所となり問題なし |

※宮崎DWAT、茨城DWATによる巡回支援(保健師、栄養士等と連携)



▲栄養士の巡回同行の様子



▲保健師によるラウンドの様子



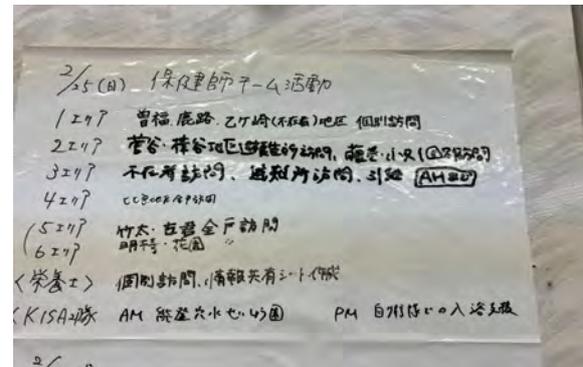
▲DWATによる避難所の巡回支援の様子



▲福祉避難スペースの状況確認



▲医療・保健等のチームとの打合せの様子



▲保健師チームの動き



▲調整本部会議の様子



▲保健師チーム会議の様子

STEP.4 輪島市、珠洲市でのDWAT活動について



▲珠洲市保健医療福祉調整本部にて

(1) 輪島市の状況

支援調整：2/12
活動期間：2/17～3/29
5/15、6/29
支援方法：常駐型支援 + 巡回型支援



- ①人口 22,079人
(65歳以上 10,805人 高齢化率 48.9%)
- ②避難者数 2,275名【2/16現在】
- ③避難所数 79ヶ所【2/16現在】
- ④岡山DWATを地域リーダーとして応援県DWATの調整役に
- ⑤輪島市保健医療福祉調整本部での把握団体【2/12現在】
 - ・DHEAT (保健所) ・J-MAT (医師会) ・JDAT (歯科医師)
 - ・AMDA ・日赤 ・AMA ・TMAT ・災害支援ナース
 - ・キャンナス ・JPCA ・DCCAT ・DWAT (福祉)

が調整本部を拠点に活動を展開

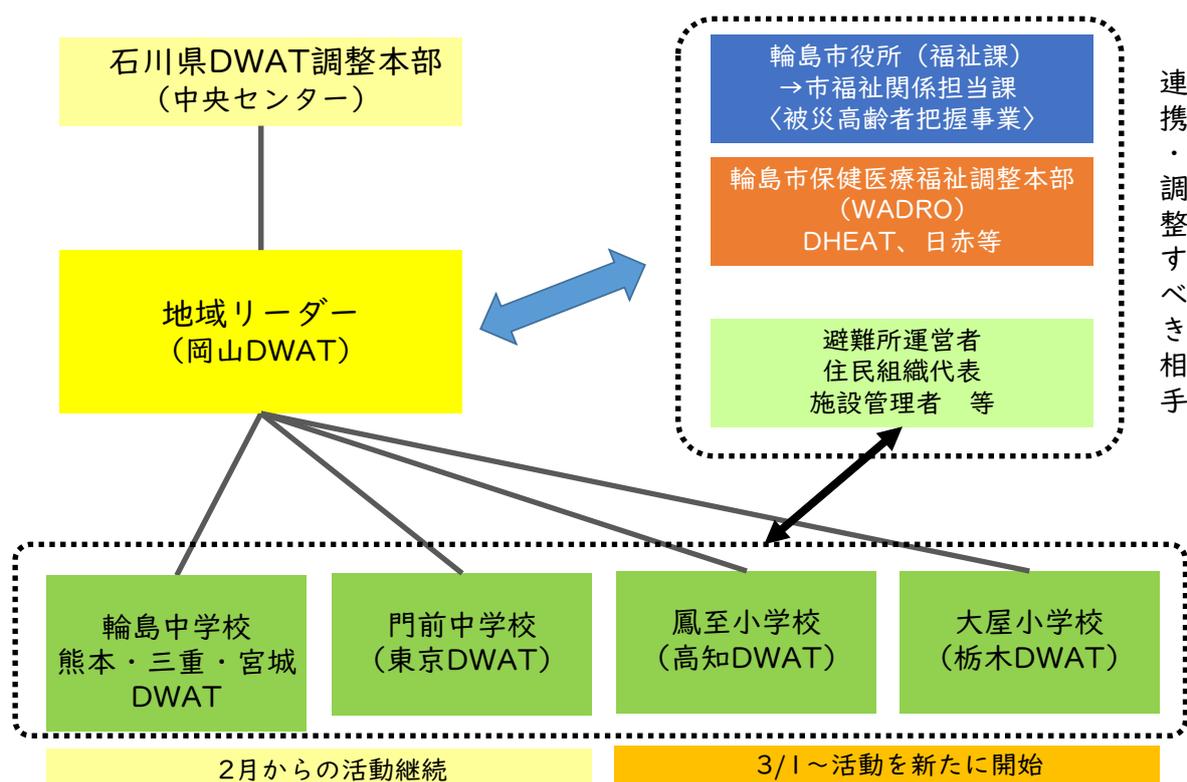
輪島市支援の経過、避難所の状況

- 2/12 アドバイザーチームが輪島市役所、保健医療福祉調整本部、輪島中学校等を訪問し、DWAT活動展開を調整
- 2/17 岡山、岩手、千葉DWATが輪島市へ（市内避難所巡回）
- 2/18 福井DWATが輪島入り
- 2/22 輪島・門前中学校に滞在し、避難所マッピング、要配慮者アセスメント等の活動開始（2/24から本格稼働）
- 3/1 鳳至・大屋小学校で活動開始
- 3/17 新規で6つの避難所への巡回支援を開始
- 3/21 新規で10か所の避難所への巡回支援を開始
- 3/25 新規で7か所の避難所への巡回支援を開始
- 3/29 全避難所でのアセスメントを終え、市内での活動を終了

再アセスメントの依頼により、5月、6月に巡回支援を実施

- 5/ 8 輪島市より、石川県へ再アセスメント依頼
- 5/15 石川県とぐんまDWATが輪島市へのヒアリングと巡回支援
- 6/29 輪島市へ石川DWAT、ぐんまDWATが巡回支援

（2）体制図（3月1日～）



(3) 輪島市での活動内容

①避難所内の活動拠点確保（相談ブースが設置できれば設置）

②避難所マッピング

避難所運営者（主に市や県外応援行政職員）から避難者名簿やマップ（避難所図面）を受領する。

③要配慮者のアセスメント（主に日中避難所にいる方）

- (1) 日中居室から出ている方へアセスメント
- (2) 避難所内のキーパーソン（民生委員、町内会長など）と連携して要配慮者の情報の有無を確認→訪問し接触
- (3) 全く情報がない場合は、避難所運営者や運営会議等で了解を得て、個別訪問

令和6年度能登半島地震 避難所要配慮者リスト【DWAT】

避難所名： 輪島中学校

| No. | 避難所位置 | 氏名 | 性別 | 年齢 | 区分 | 手帳・介護度の有無 | 要配慮事項 | 特記事項 |
|-----|---------|----|----|--------|--------|-----------|------------------|---|
| 1 | アリーナB3 | | 女 | 50~60代 | 自立在宅可能 | × | 右ひざ痛（骨折） | 既に輪島病院通院済み、困りことはない |
| 4 | アリーナE1 | | 男 | | 在宅見守り | 不明 | 糖尿病、認知症 | 認知症の状態良くない、次男(アリーナR1)から虐待の可能性あり |
| 5 | アリーナG5 | | 女 | | 在宅支援必要 | × | 認知症（昼夜逆転・せん妄）、頻尿 | せん妄はひどくない、介護度未認定だが申請の検討が必要 |
| 6 | アリーナL8 | | 女 | | 在宅見守り | 不明 | 孤立の恐れ | 故郷に帰りたい（舳倉島）、ストレス多、近縁者がおらず仮設移行後に孤立の恐れ |
| 7 | アリーナL15 | | | | 在宅見守り | 不明 | 腰痛 | 自宅で入浴（？）だが転倒の危険 |
| 8 | アリーナL16 | | 男 | | 在宅支援必要 | 不明 | 高血圧（要内服管理） | 自宅全壊、震災前は訪問入浴を利用（ヘルパーに週1で会いたい）、服薬忘れ多い |
| 9 | アリーナR8 | | 男 | | 在宅見守り | 不明 | てんかん | てんかんのことを周囲に知られると「別の避難所に行け」と言われそうで（両親が）不安、自宅半壊で仮設に入れない |



* 要配慮者の情報を地元へ引継ぎ



▲ 輪島市役所・福祉課との調整



▲ 調整本部での活動チーム



▲ 調整本部会議の様子



▲ DWATについての説明



▲ 福祉避難所の巡回



▲ 避難所の様子①



▲ 避難所の様子②



▲ 避難所の自衛隊風呂

(4) 珠洲市の状況

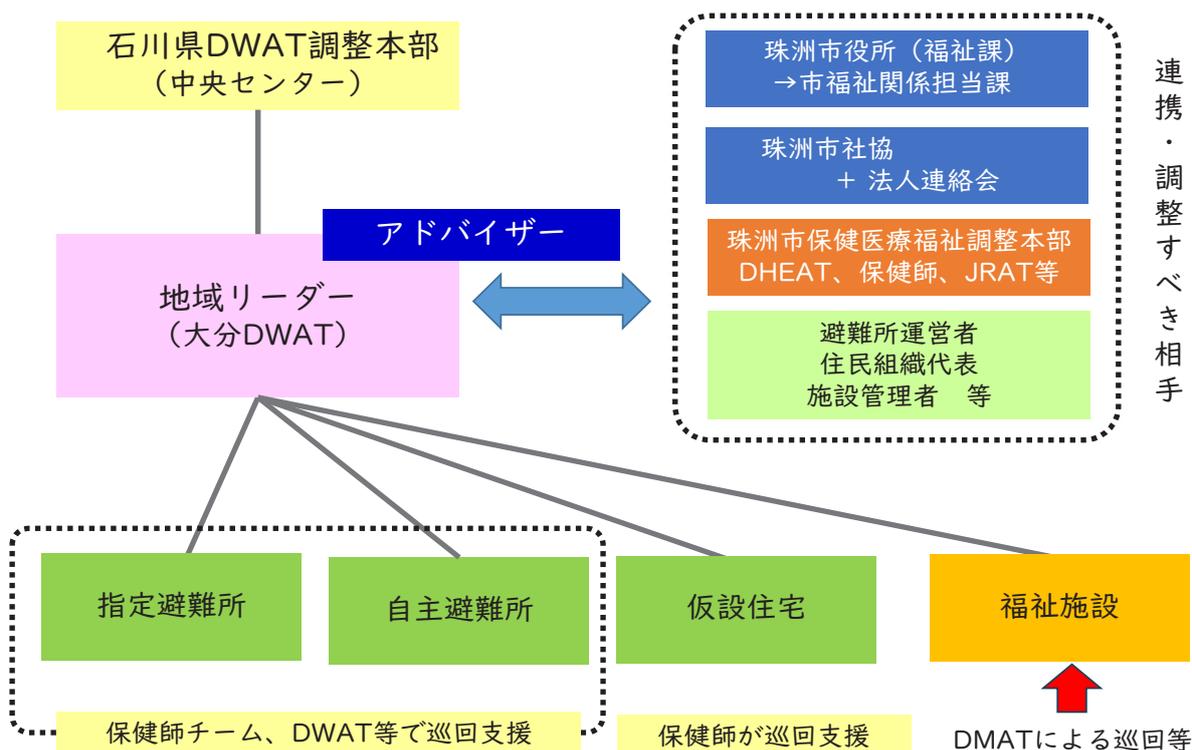
支援調整：3/5、3/8
 活動期間：3/9～3/24
 支援方法：巡回型支援



- ①人口 12,627人
 (65歳以上 6,516人 高齢化率 51.6%)
- ②避難者数 1,151名【3/5現在】
- ③避難所数 44ヶ所【3/5現在】
- ④大分DWAT・福岡DWATが巡回等を行った避難所 38か所
- ⑤珠洲市保健医療福祉調整本部での把握団体【3/9現在】
 - ・DHEAT (保健所) ・J-MAT (医師会) ・JDAT (歯科医師)
 - ・PWJT (医療支援チーム) ・日赤
 - ・病院薬剤師会 ・JDA-DAT (栄養士会) ・DWAT (福祉)

が調整本部を拠点に活動を展開

(5) 体制図 (3月8日～)



(6) DWATが巡回支援を行った避難所情報

| 避難所名 | 避難者数 | 状況等 |
|--------|------|--|
| 飯田小学校 | 61 | ・要配慮者2名のうち1名転倒により救急搬送（入院中）。 ・1名ショートステイ利用中で施設入所待ち。 ・栄養士訪問により、食事の問題解決。 |
| 宝立小学校 | 200 | ・保健師が健康相談を実施。 |
| 緑丘中学校 | 81 | ・服薬管理ができていない方。 保健師に報告し保健師より珠洲市につなぐ。 |
| 直小学校 | 60 | ・JRATが訪問（本人より支援の必要なしとの回答）。 |
| 大谷小中学校 | 35 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 上戸保育所 | 37 | ・車いす使用、デイサービス利用。 |
| 三崎中学校 | 13 | ・自分での運転が不安な方珠洲市本部に確認しタクシーを利用して受診する旨を伝える。 |
| 若山小学校 | 46 | ・保健師が健康相談を実施。 |
| 日置ハウス | 29 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 朝日避難所 | 25 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 大坊集会所 | 11 | ・精神疾患の30代男性。 今後も保健師が継続フォローしていく。 |

| 避難所名 | 避難者数 | 状況等 |
|----------|------|---|
| 蛸島小学校 | 94 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 蛸島保育所 | 45 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 元気の湯 | 11 | ・要配慮者1人パーキンソン病（2/25緑丘中へ）。 ・保健師がフォローを継続中。 |
| 旧本小学校 | 30 | ・三崎中学校への仮設転居が進んでいる。 ・健康相談有11名（要配慮者はいない）。 |
| 生涯学習センター | 60 | ・車中泊をされている方がいるとの事。 ・管理者によると避難者ではなく避難されている母親の支援のために来られた方で駐車場で2泊との事。 |
| 正院小学校 | 39 | ・特に要配慮の方はいない。 |
| 飯田公民館 | 11 | ・指定避難所ではあるが、避難所より保健師等の支援の必要は不要とのこと。 |

※大分DWAT、福岡DWATによる巡回支援（保健師、JRAT、栄養士等と連携）



▲保健等のチームとの打合せの様子



▲JRATとの連携の様子



▲調整本部会議の様子



▲現地活動チームへの本部員の巡回調整



▲保健師との巡回支援の様子



▲避難所内の様子①



▲避難所内の様子②



▲生活不活発病予防への取り組みの様子

● ぐんまDWATの配置先等



■ STEP.1

金沢市 …常駐型支援 1/8～6/30

■ STEP.2 (本部業務への協力)

志賀町 …巡回型支援 2/13、3/1、3/6

七尾市 …巡回型支援 2/13

…寄り添い支援 2/21～2/28、3/8～3/14

■ STEP.4 (本部業務への協力)

輪島市 …巡回型支援 5/15、6/29

■ 配置した人員

①コーディネーター …… 1名 (1/8～6/30)

②ロジスティクス…………… 1～3名 (2/1～6/1)

● 令和6年能登半島地震へのぐんまDWAT派遣状況

①先遣隊

| | 日数 | 派遣人数 | 延べ人日 |
|----|-----|------|------|
| 先遣 | 6日間 | 1人 | 6人日 |

②活動チーム

| | 日数 | 派遣人数 | 延べ人日 |
|----|-------|------|-------|
| 1月 | 20日間 | 8人 | 32人日 |
| 2月 | 29日間 | 25人 | 106人日 |
| 3月 | 31日間 | 28人 | 122人日 |
| 4月 | 30日間 | 24人 | 98人日 |
| 5月 | 31日間 | 24人 | 100人日 |
| 6月 | 30日間 | 10人 | 41人日 |
| | 171日間 | 119人 | 499人日 |



1月の活動

◆報告者

社会福祉法人はるな郷
生原ホーム事業所 管理者 関 芳典



プロフィール

はるな郷入職後……平成29年に知的障害者福祉協会の推薦により、ぐんまDWAT先遣隊に所属し、ぐんまDWATの組成に尽力。

令和元年東日本台風の折、長野県長野市へDWATとして初派遣。

- ・ぐんまDWAT研修・企画に関する検討委員会 委員
- ・ぐんまDWAT専門性向上のための研究会（障害者支援） 委員
- ・ぐんま認定介護福祉士
- ・BHELP標準コース修了
- ・群馬県災害医療コーディネート研修修了（9期生）

派遣活動の実績

- ・令和元年台風19号災害（長野県長野市）
- ・令和6年能登半島地震災害（石川県金沢市、七尾市、志賀町）

◆支援の概略

奥能登地域よりライフラインの整った金沢市へ要配慮者を避難させる「1.5次避難所」の開設・運営がはじまった。

要配慮者が避難される避難所として、医療・保健・福祉の各専門チームが連携して、その対応にあたった。

さらに、奥能登地域の福祉施設がサービス継続が困難な状況が発生し、利用者ごと施設避難を受け入れる「介護施設の一時待機ステーション」が併設され、介護福祉士会や全国からの介護職員応援と連携しながら、要配慮者の生活を支えていった。

ぐんまDWATは、石川県庁のリエゾンを担いながら、応援府県DWATや1.5次避難所の運営や他職種との連携の調整役として、石川DWATに伴走しながら、その活動を支えた。

活動に際しては、ぐんまDWATが大切にしている支援の3原則を徹底しつつ、地元石川DWATの7つの約束（クレド）を応援府県に配布し、心を一つに支援活動を展開していった。

| ぐんまDWAT支援の3原則 |
|---------------|
| ①被災者中心 |
| ②地元主体 |
| ③連携・協働 |

| 石川DWAT 7つの約束 |
|---|
| The Seven Promises of ISHIKAWA Disaster Welfare Assistance Team |
| ～ 石川DWAT 7つの約束 ～ |
| 誠実 Sincerity 信頼 Confidence 謙虚 Modesty 連携 Cooperation |
| 地元主体 Community centered 思いやり Consideration 心を一つに One Team |
| 石川県災害支援協議会 一六 |

1.5次避難所の開設について

<概要>

- 能登北部の**要支援者**（高齢者 {65歳以上}、妊婦、乳幼児、障害者）を被災地の1次避難所から、ライフラインの整った**金沢市内の1.5次避難所に搬送**
- スクリーニングした上で、ホテル等の2次避難所（妊婦や集団生活できない精神疾患患者等）や病院（医療が必要になった人）に搬送

<実施期間>

- 始期：1/8（月）～ 終期：被災地の仮設住宅が整備されるまで

<場所>

- 1.5次避難所：**いしかわスポーツセンター メインアリーナ**
- 2次避難所：ホテル・旅館、公営住宅、民間賃貸住宅、介護施設等



被災地



1.5次避難所 定員：400人
（いしかわスポーツセンター）

スクリーニング（ホテル・旅館、公営住宅、介護施設等）



2次避難所

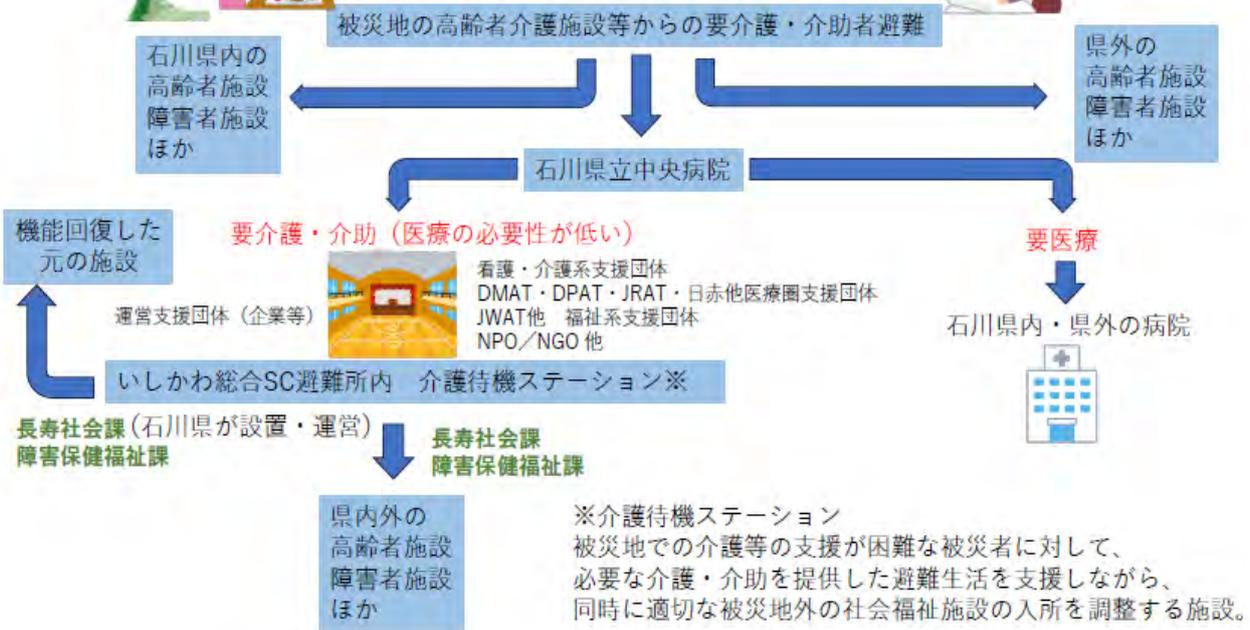


病院



◆ 広域避難フロー図 ◆

2024/01/09版



■ 1月に「1.5次避難所」内で活動していた支援チーム

- 保健師 ○看護協会 ○JRAT ○介護士協会 ○DWA T
- DMAT（マルチ・サブアリーナ）○薬剤師会（1/14～）
- 栄養士会 ○全国経営協（介護職員）○ケアマネ協会 ○DPAT
- MSW ○DHEAT ○YMCA ○歯科医師会（1/25～）

この期間の避難者数の推移

- ・1月12日 メイン190名 マルチ26名
- ・1月16日 メイン242名 マルチ24名 サブ46名
- ・1月26日 メイン225名 マルチ30名 サブ71名
- ・1月31日 メイン195名 マルチ25名 サブ62名



▲保健師との連携会議



▲全体会議（本部会議室）

■ 1月の活動体制

| 石川DWAT | ぐんまDWAT | 静岡DWAT | 応援府県DWAT |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・なんでも相談 ・アセスメント ・支援の引継ぎ | <ul style="list-style-type: none"> ・全体調整 ・支援情報整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー業務 ・受付業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンド業務 ・アセスメント業務 |

この期間のDWAT活動で求められたもの

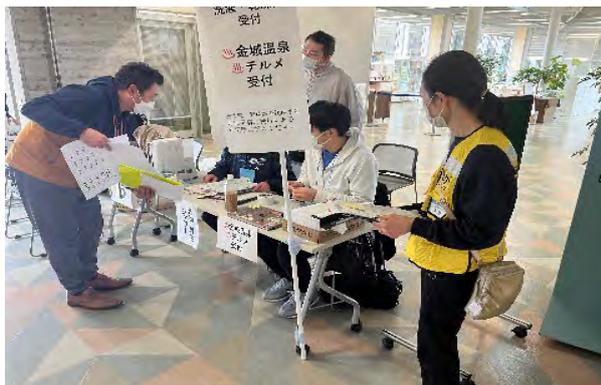
- 保健医療福祉活動チームの連携体制と役割分担整理
(災害医療コーディネート研修修了者等のコーディネーターメンバーで対応)
- 1.5次避難所として、初期の段階では2次避難所への調整が最優先であったが、介護の必要性や様々な課題から徐々に滞留者が増え始めていた。
- 入口のアセスメントから、ラウンドでの聞き取り、出口支援への対応、介護ニーズの充足など課題が集中しており、それぞれの課題を細分して対応するため、出口支援の全体像の構築が求められた。
- 遅い時間での新規のラウンドについては、応援府県DWATとも相談して遅番対応とした。
- 身体介護が必要な方への直接支援(入浴支援体制)ニーズに対し、看護師の直接介護や応援府県DWATからシャワー介助の要員を割り当てたこともあったが、介護職員応援派遣による介護職員チームに引き継いでいった。
- 介護職員応援派遣の受付や説明や担当割り振り、勤怠管理等について、福祉避難所運営支援チームであった熊本DWAT(熊本県経営協チーム)に引継ぐ等の調整をはかった。



▲ 県庁職員との連携の様子



▲ 介護職員応援派遣者への引き継ぎ

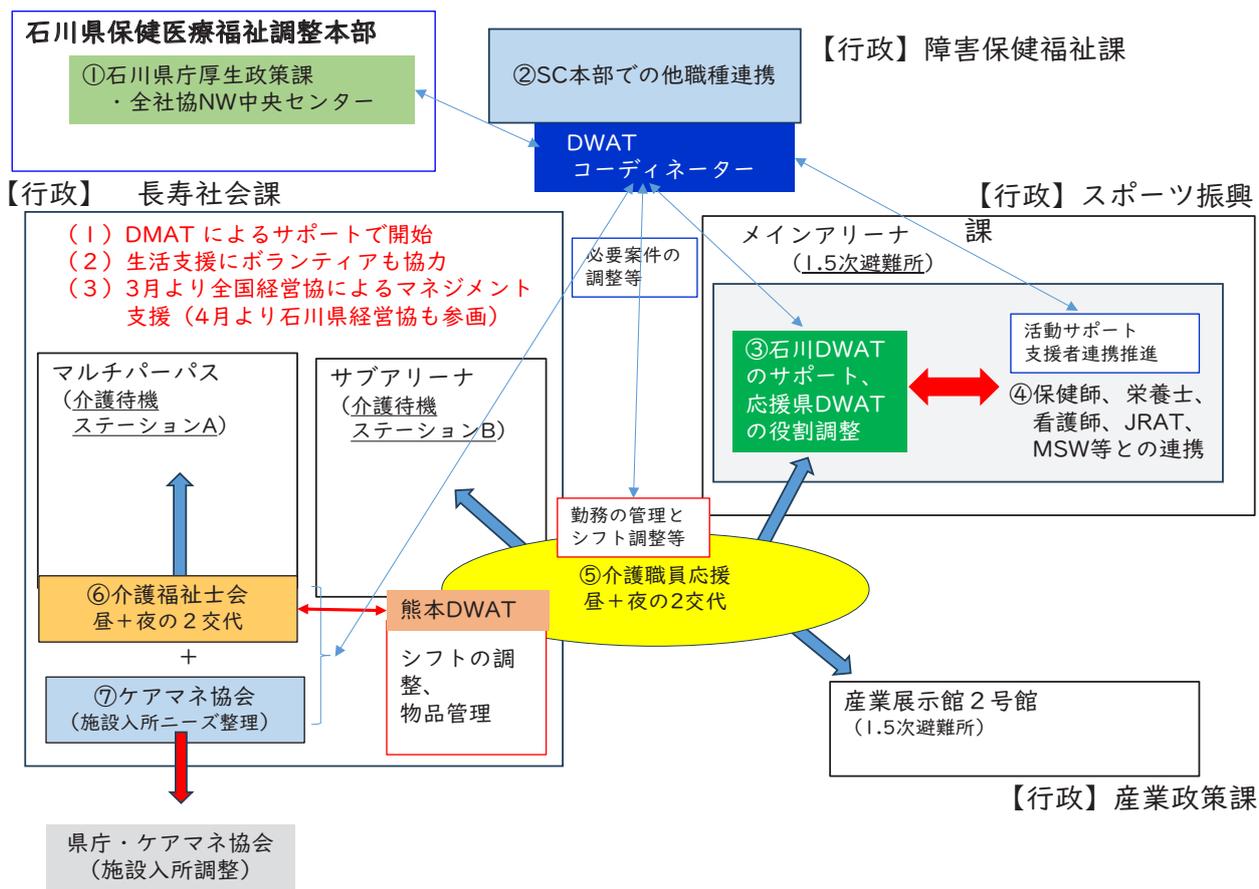


▲ シャワー浴対応の調整



▲ 介護職員応援派遣調整の業務引継

1.5次避難所におけるDWATコーディネーターの役割（イメージ）



■この期間を活動して

- 1.5次避難所として2次避難所への調整が滞り、メインだけで280名となった。
- 介護ニーズへの対応による直接支援が想定よりも大きく、対応に苦慮した。
- 多くの県が応援参加してくれたが、やりたいことに注力し、チームとして統制が取りづらかった。
- 情報の整理がつかず、専従でのロジスティクスの体制の必要性を感じた。



▲到着後の様子（遅番）



▲応援県のロジ（事務）



▲2次避難所案内の様子



▲なんでも福祉相談の様子

● 1月の活動者の声

| | |
|-------|------------------|
| 所属団体 | 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 |
| 所属機関 | 群馬リハビリテーション病院 |
| 活動者氏名 | 小川 晋平 |



◆活動に参加して

私が活動した1月下旬は、DWATが1.5次避難所で担う役割が整理されてきていましたが、全国各地からの応援派遣体制の中で、初めて派遣される県も多く、DWAT全体のガバナンスに課題を感じました。かなり前のめりに活動を主張する県や担う役割を超えて独自の改善点を地元DWATへ提案する姿が見られ、被災者や地元組織を中心に据えた支援からずれないように配慮していきました。

避難者は想定を超える避難日数の長期化や退所先の選定に難渋する等、福祉的な課題を抱える方も多く、地元の石川DWATに寄り添い、被災者中心、地元主体、連携・協働を心掛けて活動させていただきました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

避難所全体を俯瞰して見られる鳥の目を養い、地元の受援力もアセスメントし、過剰な提案や助言は避けるよう研修や訓練で学ぶしておくことが大切であると感じています。

また、連携する相手(他の支援団体等)の役割や特性を平時から学ぶことで、避難所で連携を図る際、円滑に連携することができると考えています。

平時から、避難所でDWATが担う役割を想定し、様々な研修や訓練を重ねることで、実践力を身につけることが肝要であると考えます。

| | |
|-------|--------------|
| 所属団体 | 社会福祉法人経営者協議会 |
| 所属機関 | 障害者支援施設 さくら園 |
| 活動者氏名 | 荒田 剛志 |



◆活動に参加して

私が活動に参加した1月末のぐんまDWATは、熊本DWATと協力し1.5次避難所内の各エリアで活動する介護チームのシフト作成にも関わりながら、様々な調整業務を担っていました。発災から1ヶ月後というフェーズで、医療チームからの「今後のDMATの縮小を見据え福祉チームとの情報共有と連携を進めたい」という申し入れに対応したり、2月から新たに支援活動に入る複数の他県チームの業務分担等を石川県の担当者と打ち合わせたりする場面に立ち会う機会もありました。流動的な状況だからこそ、連携、協働のための情報共有や多方面との迅速な確認作業が肝要であることを肌で感じる体験となりました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

被災地の状況や発災からの時間の経過の中で、求められる役割や必要な支援活動の内容は移り変わって行くため事前の準備が難しい側面もあるのかもしれませんが、だからこそ、訓練や研修を通してあらかじめ避難所運営の全体像についてイメージを持っておくことや、連携が必要な他の支援団体等に関する理解を深めておくことが必要であると考えています。



2月～3月の活動

◆報告者

社会福祉法人邑友会

特別養護老人ホームやまつつじ

理学療法士 南川 基治



プロフィール

平成17年～29年まで特別養護老人ホームやまつつじ施設長を務める。その後、併設デイ、特養にてリハビリ業務を担当

- ぐんまDWAT広報・情報発信に関する検討委員会（委員長）
- ぐんまDWAT専門性向上のための研究会（高齢者支援・専門委員）
- ぐんまDWAT専門性向上のための研究会（障害者支援・専門委員）
- 群馬県老人福祉協議会感染症及び災害対策委員会（副委員長）
- 群馬県太田市障がい認定審査会委員
- 群馬県理学療法士協会公益事業推進部員

理学療法士、介護支援専門員、群馬県なんでも福祉相談員、JIMTEF災害医療研修スキルアップコース、BHELP標準コース修了、群馬県災害医療コーディネート研修修了（6期生）、避難生活支援リーダー/サポーター、JRAT R/L/Dスタッフ、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダー、フレイル対策推進マネジャー

派遣活動の実績

- ・平成30年西日本豪雨災害（岡山県倉敷市）
- ・令和元年台風19号災害（長野県長野市）
- ・令和6年能登半島地震災害（石川県金沢市）

◆支援の概略

2月より地域リーダー制が始まるにあたり、全国からの派遣チームには事前オリエンテーションが行われ制度の周知がなされていたが、すでに派遣中のチームもいるため、組織図を作成しCommand & Controlを確立させた。

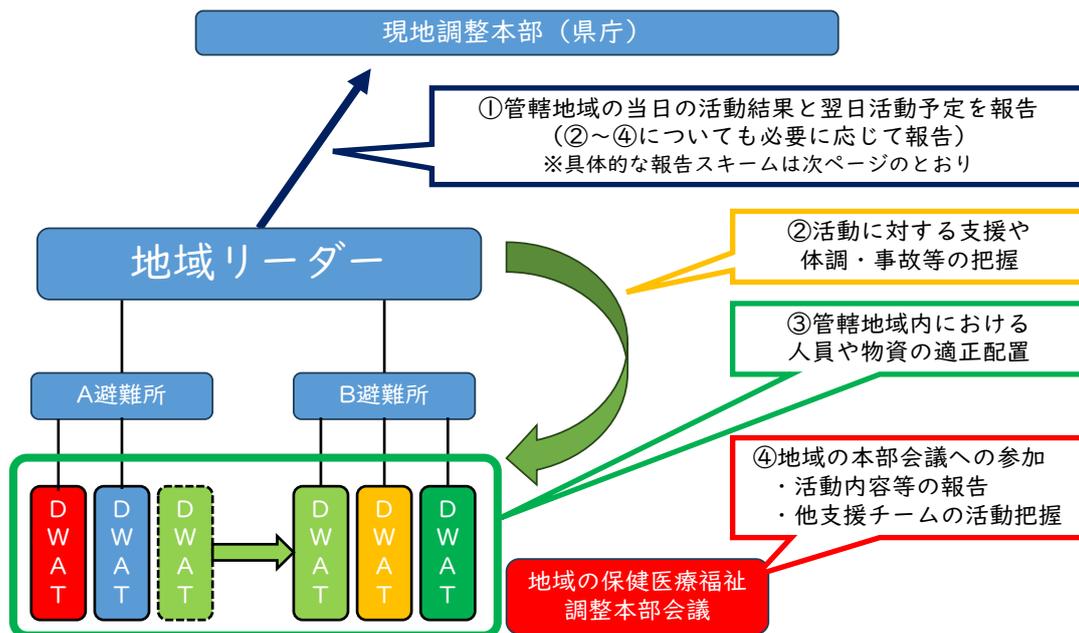
ぐんまDWATは地域リーダー+ロジスティクスの2名体制であったので、当日の派遣チームの中からリーダー、ロジスタッフを選任し本部運営会議等への出席や支援チームへの朝夕の申し送り、ケース記録入力、各種マニュアル作成・更新等をお願いした。

3月には1.5次避難所の統合があり、新たな避難者を受け入れるよりも送り出すフェーズに切り替わったため、DWAT支援活動も退所支援についても念頭に入れた活動を支援チームに周知することとなった。

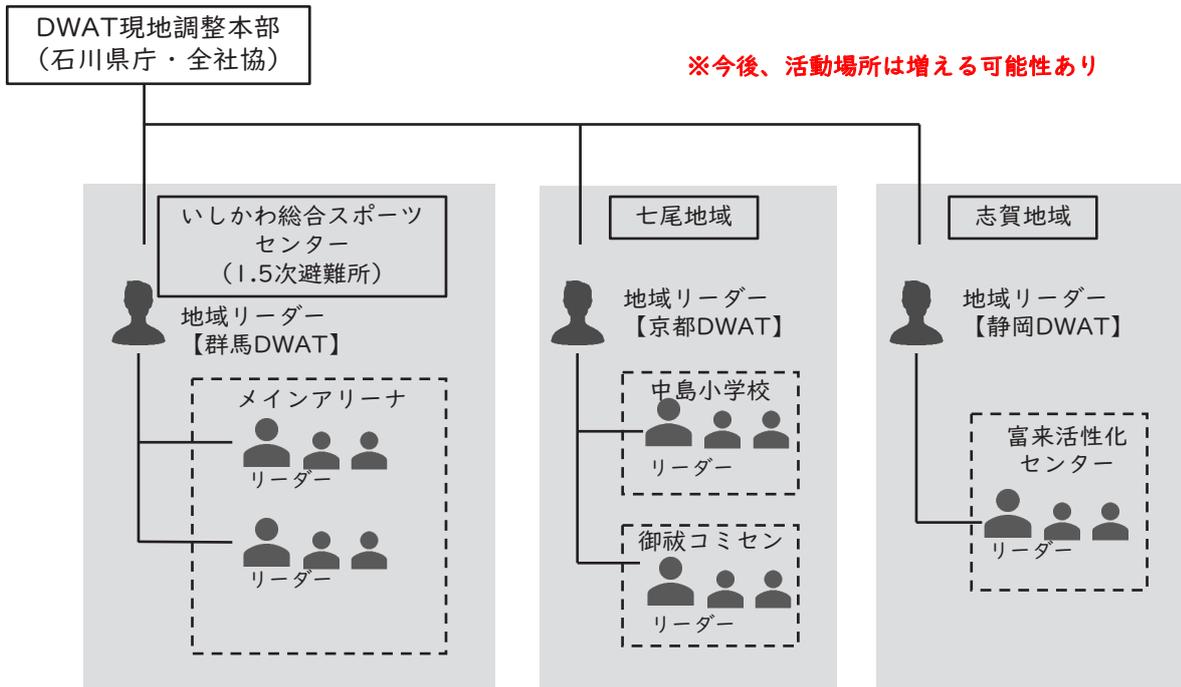
同時に志賀町のDWAT撤退が予定よりも遅れており、輪島市に部隊を送るためにも速やかな撤収が求められたため、現地に赴き避難所の現状を確認し福祉ニーズが少なくなっていることを調整本部会議にて報告し、3月半ばでの撤収となった。

また、サブアリーナでの介護が必要な一時待機ステーションでは直接介護チームの適正な人員配置についての照会があり、避難者のADLなどを調査し介護施設での人員配置との比較を行い報告した。

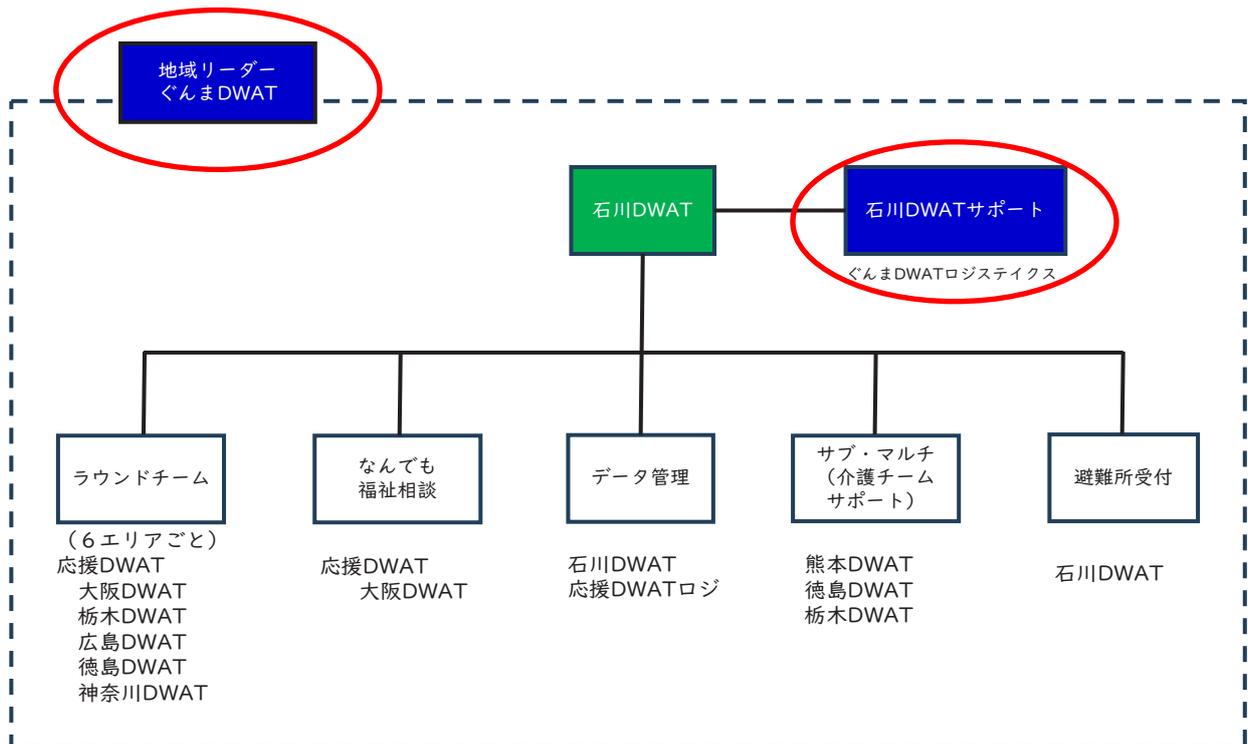
地域リーダーの活動について(イメージ)



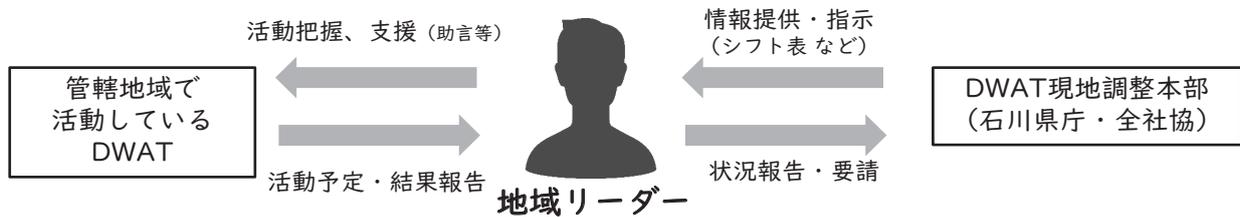
DWATの組織系統図



いしかわ総合スポーツセンターDWAT組織図(2/1~5)



地域リーダーの概要・役割



リーダーの主な役割

各地区で活動するDWATチームの管理・指導
 ✓ 活動内容の把握 (健康管理含む)
 ✓ 経験を踏まえた活動支援
 ✓ 人員、物資等の資源配分 など

関係機関との調整
 ✓ 市町との調整 (各チームで対応できない案件)
 ✓ 地域の保健医療福祉調整
 本部会議への出席 など

本部との連絡調整
 ✓ 毎日の定期報告
 ✓ 増員・物資要請 など

※リーダー本人が直接作業に従事すると全体のオペレーションに影響するため、極力管理業務に専念すること！
 (手が足りない場合は本部に増員要請するなど協議)

地域リーダーの業務例 (スケジュールイメージ)

朝 各所で活動しているチームリーダーに電話や訪問等で活動予定、活動メンバーの確認、体調等を聞き取り

昼 チームが活動している避難所を回り、状況や課題の聞き取り、今後の見通しなどを共有、相談。

巡回しているチームについては、各避難所の状況の聞き取り、滞在型支援が必要な避難所がある場合は、今後の入り方などを協議

避難所におけるDWATのニーズが減少してきた場合は、撤退を見据え今後の対応を検討する。
 逆に、ニーズが高い避難所がある場合は、地域内でチームを動かすことを検討する。(チームが不足する場合には、本部へチームの追加派遣を要請する。) …など地域内をマネジメント

地域リーダーの業務例（スケジュールイメージ）

タ 地域の保健医療福祉調整本部会議に出席（DWATの活動報告、他支援チーム・行政との調整等）

チームリーダーに電話等で活動結果や事故の有無、課題等を確認
本部への活動報告の作成、共有ドライブへの保存

地域リーダーとして会議に参加し、情報を地域で活動するチームと共有したり、本部へ報告したりする。

また、他支援チーム（協力の取り付け）や行政機関の情報（被災者向けの相談先の確認、相談コーナーで受けた相談をつなぐ連絡先等）を入手し、チームの活動の後方支援を行う。

1.5次避難所のDWAT活動体制について（2月～3月）

■ 2月～3月の活動体制

| 石川DWAT | ぐんまDWAT | 応援府県DWAT |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー業務 ・なんでも相談 ・支援の引継ぎ | <ul style="list-style-type: none"> ・全体調整（地域リーダー） ・支援情報整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・サブリーダー業務 ・受付業務 ・アセスメント（メイン、サブ） ・支援情報整理 |

■ 3月1日現在の避難者数
 メイン：91名（*180名）
 サブ：84名（*104名）
 産展：36名（*76名）
 *は2/1時点の避難者数

■ DWATの配置人数
 石川県：0～1名（*3～4名）
 群馬県：3名（*2～3名）
 応援府県：29名（*27名）

■ DWATの支援体制

- (1) 対応検討が必要な方のラウンドが最優先
- (2) 対応方針が確定した者の情報の継続更新
- (3) 受付・面会対応の引継ぎ（総合受付へ）
- (4) ケースの引継ぎ（地元のケアマネ協会、医療ソーシャルワーカー協会等）

| DWATに求められたこと | ぐんまDWATが 対応を心がけたこと |
|--|---|
| なんでも相談 避難者のアセスメント 二次避難先の調整 DMAT撤収後のサブ・マルチ対応 通院介助 | 地域リーダー制度が始まり指揮・命令 系統を明確にする 産業展示館避難所閉鎖に伴い、運営期 から転換期へのフェーズ移行 |
| 介護待機ステーションでの介護業務 | 介護福祉士会 介護職員の応援派遣（国スキーム） |



▲ 申し送り風景（2月初旬）



▲ 申し送り風景（3月下旬）



▲ 介護職員の受付風景



▲ 介護職員のシフト調整



▲ 介護職員チームによるイベント



▲ 介護待機ステーションの運営検討の様子

■七尾市・志賀町への巡回型支援の様子



▲活動チームとの情報共有（七尾市）



▲石川DWAT活動前の事前調整（七尾市）



▲避難所内の巡回（志賀町）



▲活動チームとの情報共有（志賀町）

■七尾市での寄り添い支援の様子（石川DWATの活動先変更時）



▲茨城県チームからの引継ぎ



▲医療チーム（巡回）との情報共有



▲チーム内ミーティングの様子



▲七尾市内での活動チームのミーティング

● 2月の活動者の声

| | |
|-------|-----------------|
| 所属団体 | 群馬県介護福祉士会 |
| 所属機関 | 特別養護老人ホーム小野子ヒルズ |
| 活動者氏名 | 森川 康 弘 |



◆活動に参加して

発災から1ヵ月が経過した2月上旬に石川県金沢市に設置された1.5次避難所「いしかわ総合スポーツセンター」での支援に入りました。私にとってはこれが初めての活動派遣であり、被災地域から遠く離れ、ライフラインが整う場所での石川DWATによる避難所運営のサポートが主な任務でした。

この震災で初めて設置された1.5次避難所周辺の街並みには大きな被害もなく、震災を肌で感じることはありませんでしたが、1.5次避難所に入ると空気が変わり「日常」と「非日常」が混在する独特な空間での活動に戸惑いを感じました。

私は避難者への直接的な支援ではなく、情報を管理する「ロジスティクス」を担当し、リーダーに同行した他団体との会議への出席、DWATメンバーのアセスメント情報の整理、活動報告書の作成、活動費の管理等の役割を担いました。初めての活動でも、前任者の方々が構築した情報伝達方法の丁寧な引継ぎとそれらのマニュアルが整備されていたので、安心して任務を遂行することができました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

「ロジスティクス」を担当した経験から、正確な情報整理と的確な情報伝達を行うため、平時から基本的なPC操作に慣れておくこと、情報伝達の流れに注意し周知するために工夫する習慣を身につけておくことと良いと考えます。日頃の多職種連携に必要なスキルが避難所運営でも欠かせないスキルになると思います。

| | |
|-------|----------------|
| 所属団体 | 群馬県児童養護施設連絡協議会 |
| 所属機関 | 児童養護施設こはるび |
| 活動者氏名 | 陸川 恭 太 |



◆活動に参加して

私は2月中旬から下旬にかけて1.5次避難所にて活動させていただきました。発災から1か月以上が経過していたこともあり、避難所におけるDWATの役割や活動内容が整理され、保健師やMSWなどの専門職との連携体制も確立していたため、スムーズに活動することができました。一方で、避難者の2次避難所への移行がなかなか進まず、1.5次避難所での避難期間の長期化しつつある状況でした。被災者の不安に寄り添い、福祉的な課題を整理しながら、丁寧に次の支援に繋げることを心掛けました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

DWATに求められる役割をきちんと理解することが大切と考えます。避難所では被災者に寄り添うことはもちろん、避難所における役割を把握して活動することが求められます。そのため、災害や避難所によって異なる課題やフェーズによって変化するニーズへの対応、DWAT内での情報共有、多職種との連携など研修等を通じて知識や技術を学ぶこと、経験値を高めることが必要される支援に繋がると思います。

● 3月の活動者の声

| | |
|-------|-----------------|
| 所属団体 | 群馬県知的障害者福祉協会 |
| 所属機関 | 障害者支援施設 妙義もみじ学園 |
| 活動者氏名 | 吉岡 沙織 |



◆活動に参加して

2月29日～3月3日の期間に活動に入らせていただきました。この時期には、地元DWATは別避難所支援の為1.5次避難所にはおらず、大阪DWATがリーダーとして活動していました。また、産業展示館での避難所閉鎖を控えていたこともあり、1.5次避難所内でのテント移動、移動してくる方のテント振り分け、産展での引継ぎ等様々な方と情報共有し支援内容の検討をしていた時期でもありました。地元DWAT不在の中でも、石川DWAT7つの約束を大切にリーダーである大阪DWATと協力し活動に取り組むことを心掛けていました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

避難所内でのDWATの役割を理解すること、定期的に研修や訓練に参加しておくことは大切だと思います。研修等に参加することで、DWAT内で顔見知りが出ることも心強いです。情報共有されている研修報告等に興味を持つことも、理解を深めることに繋がると思います。

| | |
|-------|----------------|
| 所属団体 | 群馬県身体障害者施設協議会 |
| 所属機関 | 障害者支援施設 イシノ療護園 |
| 活動者氏名 | 石関 浩幸 |



◆活動に参加して

今回の能登半島地震において3月に初めて災害派遣に参加しました。当時、情報交換出来るメンバーもおらず、事前にZOOMでのオリエンテーションに参加するなどしても不安な気持ちでいっぱいだったのを覚えています。

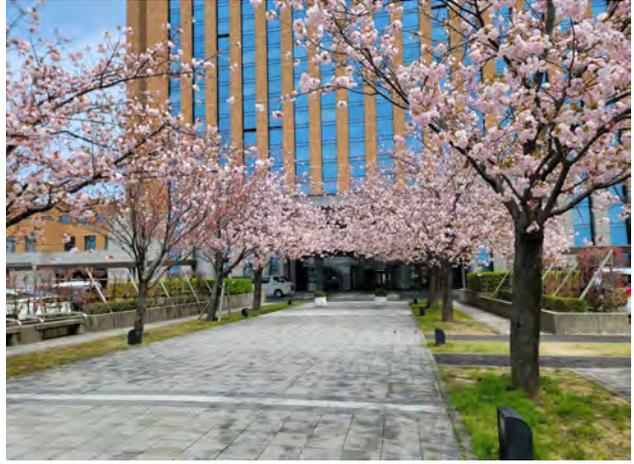
いざ現地に入ると短い派遣期間の中でしたが、状況は日々絶えず変化することを実感しました。そのため避難所内には様々な支援団体がおりましたが、それぞれの連携・情報共有の重要性を感じました。

また今回の派遣を通じて、DWAT内においてもそれぞれ役割が与えられており、自分のポジションを理解して遂行すること、チームワークの重要性を再認識しました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

現地に行って驚いたのは情報量の多さと状況変化の速さです。情報管理のためにもPC・スマートフォンなどのデジタルツールの活用は欠かせません。

また、SNSを活用した情報共有もマストとなっています。私はそういった部分に明るくない部分がありましたので、苦手な方は日頃からツールに慣れておく必要があるかと思いました。そういった部分も前任者にフォロー頂きましたことから、メンバー間でのサポートやつながりの大切を感じました。



4月の活動

◆報告者

社会福祉法人三山黎明会

サニーズマーケット

管理者 石倉 敦也



プロフィール

三山黎明会入職後、平成30年に群馬県社会福祉法人経営者協議会の推薦により、群馬県災害派遣福祉チームに登録。

令和元年東日本台風の折、長野県長野市ヘロジスティクスとして派遣。

- ・ぐんまDWAT専門性向上のための研究会（障害者支援）座長
- ・群馬県災害医療コーディネート研修修了（7期生）
- ・避難生活支援リーダー/サポーター研修アシスタント講師
- ・社会福祉士

派遣活動の実績

- ・令和元年台風19号災害（長野県長野市）
- ・令和6年能登半島地震災害（石川県金沢市）

◆支援の概略

医療保健福祉連携会議が3月末で終了し全体会議に集約となった。全体会議内にて関係機関とのカンファレンス及びミーティングを並行して実施となった。

支援団体の縮小・撤退が増える中で各団体の役割を明確にし、要配慮者を中心に置いて有機的な連携のもと支えるイメージを持つことが重要であった。

ライフラインの復旧待ちの方へのアセスメントの頻度やライフラインの状況を施設管理者に確認する、罹災証明や災害義援金の申請相談など被災者の不安に寄り添う支援として「なんでも相談」が機能的に動いた。（安定的な日常生活への移行に向けて生活面の相談内容として受け入れ対応した）

金沢市内に開設した福祉避難所への移送候補者の調整を関係者間で実施した。

5月からの活動縮小を見据えて引継書やマニュアルの見直し、ToDoリストの活用と後続チームへのオリエンテーションを実施して引継ぎの体制を整えた。



▲ケアカンファレンスの様子



▲後続チームへのオリエンテーション

■ 4月にスポセン内で活動していた支援チーム

○保健師 ○看護協会 ○薬剤師会（4月21日撤退）○MSW
○JRAT（4月12日撤退）撤退後13日より県リハセンが引継ぎ
○DWAT ○栄養士会 ○全国経営協（介護職員）○ケアマネ協会
○DPATオンコール撤退後こころの救急ダイヤルがオンコール

この期間の避難者数の推移

| | | |
|--------|--------|-------|
| ・4月1日 | メイン97名 | サブ52名 |
| ・4月10日 | メイン86名 | サブ47名 |
| ・4月20日 | メイン73名 | サブ38名 |
| ・4月30日 | メイン66名 | サブ34名 |



▲DWATミーティングの様子



▲なんでも相談の様子

■4月の活動体制～4県10名体制

石川DWAT

- ・なんでも相談

ぐんまDWAT

- ・全体調整
- ・支援情報整理

千葉DWAT

- ・アセスメント
(メイン)

静岡DWAT

- ・アセスメント
(サブ)

この期間のDWAT活動で求められたもの

- 医療保健福祉連携会議が3月をもって終了し全体会議に集約。
カンファレンス及びミーティング、情報収集を並行して全体会議で実施となった。
- 支援団体の縮小・撤退が増え、被災者の中でも閉所を意識し始めた様に感じられた。
被災者の不安を煽らないようアセスメント等の関わり方に配慮が必要となった。
- 罹災証明や災害義援金の申請などの相談を受けるケースもあり、フェーズの変化とともに被災者のニーズの変遷も見受けられた。
- ライフラインの状況を施設管理者に確認するなど被災者の不安に寄り添う支援として、「なんでも相談」が有効的に機能していった。
- 5月からの活動縮小を見据え、引継書やマニュアルの見直しを行い、後続チームへのオリエンテーションを実施。

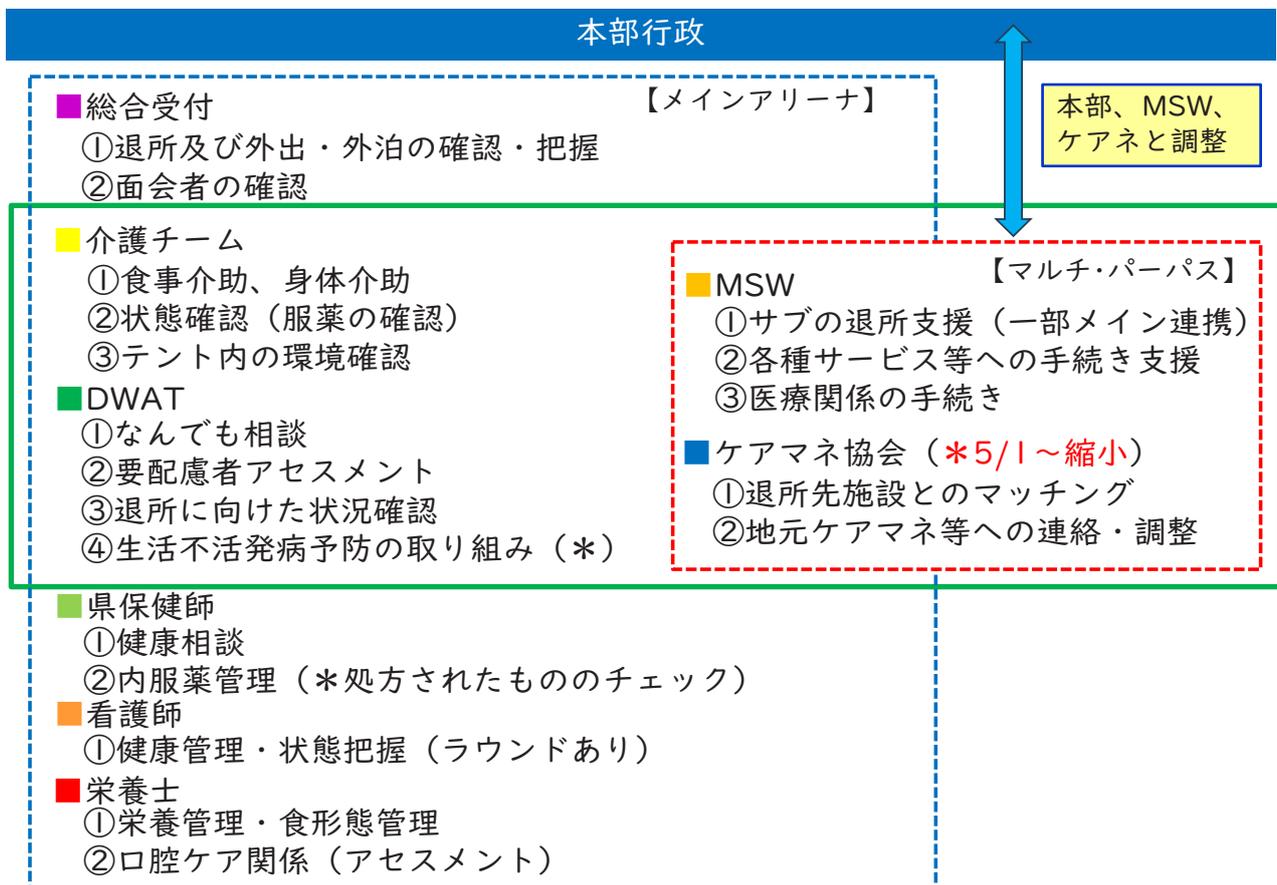


▲介護チームとの連携

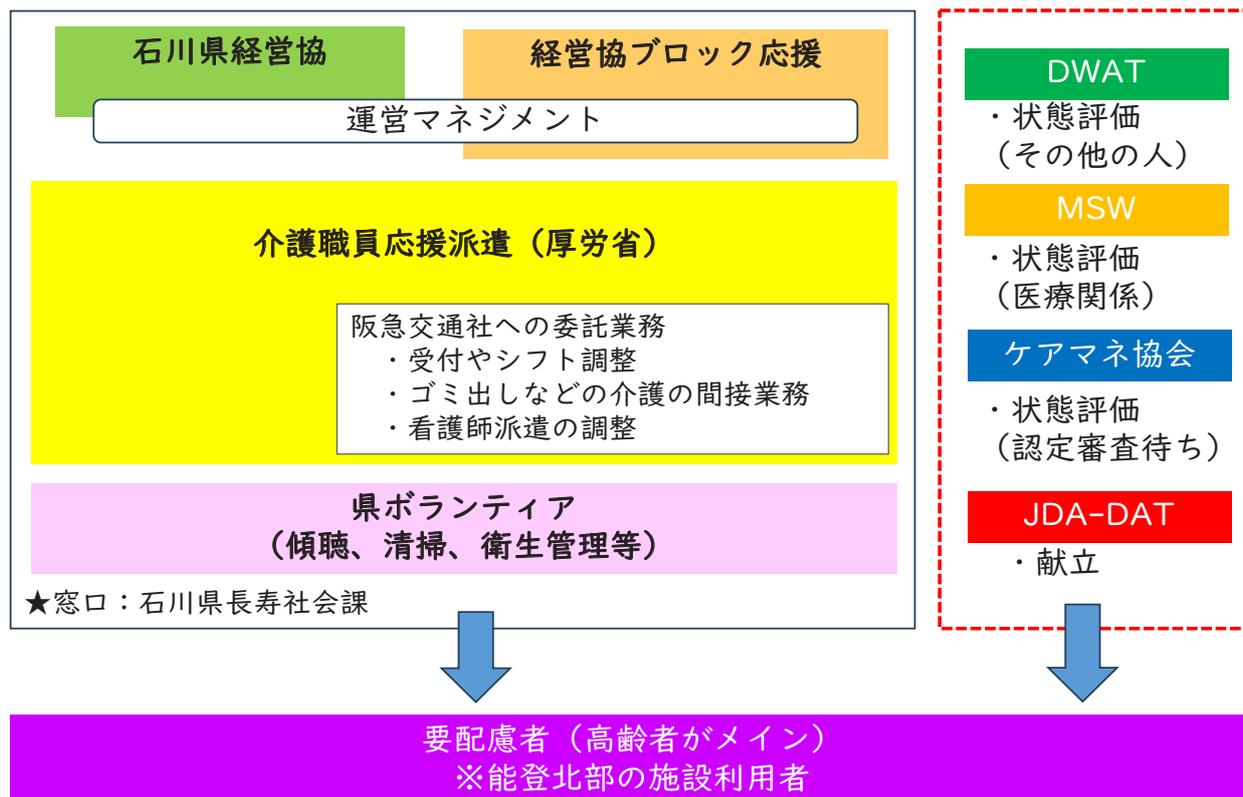


▲後続チームへのオリエンテーション

「1.5次避難所」活動イメージ図



1.5次避難所「介護待機ステーション（サブ・アリーナ）」活動イメージ図



この期間を活動して

- 支援団体が減少する中、各団体とも役割を明確にし、要配慮者を中心に置いてそれぞれが有機的に連携して支えるイメージを持つことが重要と感じた。
- 次の生活場所が決まっていて、ライフラインの復旧待ちの方へのアセスメントの頻度や声掛けの内容。
- 福祉避難所開設に伴い移送候補者の調整を関係者間で実施。
- 被災者の情報管理や持ちえた情報の使用方法を見直し、フロアマップの有効活用に変化が見られた。
- 後続チームへの引継ぎとしてToDoリストの活用。



▲面会者への対応



▲キッズスペースの様子（面会時）



▲アセスメントの優先順位付け作業



▲1.5次避難所立ち上げ期メンバーの訪問

● 4月の活動者の声

| | |
|-------|----------|
| 所属団体 | 群馬県保育協議会 |
| 所属機関 | ゆたか保育園 |
| 活動者氏名 | 山口 栞 |



◆活動に参加して

私が活動に参加をしたのは4月中旬でした。ロジスティクスの役割を行いましたが、日々情報が更新されていく中で、新しい情報を地元DWATを中心に支援に来られているDWATにわかりやすく伝え、情報共有をすることの重要性を感じました。活動では地元の石川DWAT、地元主体という事を常に頭に入れ、活動させていただきました。私は数日の活動でしたが、避難者の方々は長期の避難で自宅に帰りたいがライフラインが止まってしまい、復旧の目処がつかず帰れないなど不安を抱えている方も多く見られました。

また実際に避難所へ支援に参加させていただくことで、避難所内での課題や被災者の方の気持ちを少しでも理解することができたのではないかと思います。

◆平時から取り組んでおくべきこと

様々な研修や訓練を重ねることで、避難所ではどんな課題があり悩みを抱えている避難者がいるのかを想定し、チーム内で話し合うことは大切であると感じました。また、女性・子供目線に立ち、自分が避難する立場になったら、どんなことがあったら有り難いかなど考えることも大事ではないのかなと思います。平時から様々な福祉の職業の方の役割や特性を学び、知ることで、専門的な言葉や連携する機関など頭の中で整理することができるのではないかと思います。避難所で担う役割を理解し、落ち着いて活動に取り組めるよう日頃の訓練や研修は重要であると考えています。

| | |
|-------|------------|
| 所属団体 | 群馬県救護施設協議会 |
| 所属機関 | 救護施設 緑荘 |
| 活動者氏名 | 村岡 稔久 |



◆活動に参加して

私は3月上旬と4月中旬に1.5次避難所で活動させて頂きました。3月と4月の避難所を比較すると、3月では1次避難所縮小に伴い1.5次避難所に移動してくる被災者の方が見受けられましたが、4月は1.5次避難所の縮小化の流れが出来てきており、DWATを始め多職種のチームが被災者の地域移行や施設移動の為に連携して行動していました。

被災地域を復興するのは被災者自身であることから、1.5次避難所の縮小はタイミング的に良かったと感じました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

有事が起きた際、速やかに活動できる様研修や訓練等で知識や技術を学んでいく事が重要と考えます。どちらか一方を学んでも行動や知識がすり合わなくなってしまうからです。

また、DWATだけでなく多職種の支援チームの特性や役割等を知ることにより実際に有事が起きた際には連携が早く行うことが出来ると考えます。



5月～6月の活動

- ◆ **報告者**
社会福祉法人尾瀬長寿会
特別養護老人ホーム桜花苑
副施設長 星野 駿人



プロフィール

平成26年に特別養護老人ホーム桜花苑へ入職し、平成30年に群馬県社会福祉法人経営者協議会の推薦によりぐんまDWATへ登録。

- ・ぐんまDWAT研修・企画に関する検討委員会 委員
 - ・ぐんまDWAT専門性向上のための研究会（高齢者支援）委員
 - ・群馬県老人福祉施設協議会感染症及び災害対策委員会 委員
 - ・全国社会福祉法人経営者協議会北関東・信越ブロック
災害担当企画委員会 委員
- ・社会福祉士、BHELP標準コース修了、群馬県なんでも福祉相談員

派遣活動の実績

- ・令和元年台風19号災害（長野県長野市）
- ・令和6年能登半島地震災害（石川県金沢市）

◆支援の概略

5月から石川・ぐんまDWATの2県体制に移行。限られた人員の中で、避難者一人ひとりの状況に応じた支援を実施するため、ToDoリストやラウンドリストを活用し、避難者の状況確認や仮設住宅・福祉避難所・シェルターへの移動調整を進め、支援の抜け漏れを防ぎながら対応にあたる。

5月下旬には、1.5次避難所で活動を行う各支援チームの活動縮小・撤退の動きが進む。支援体制の見直し、避難者の次の生活拠点への移行のための調整の動きが本格化する中、石川DWATと協力しながら、個別支援を強化するとともに、各支援チームと連携し、環境の変化に応じた支援を実施。また、これまでぐんまDWATが担ってきたDWATロジ業務の石川DWATへの引継ぎを行う。

6月に入ると、メインアリーナ・サブアリーナ統合のための動きが本格化し、避難所の規模縮小とともに各支援チームの活動体制も縮小。石川DWAT主体の支援へ移行する中、ぐんまDWATは石川DWATをサポートするため情報整理や各支援チームとの連携・協働を意識しながら活動を実施。

また、6月下旬には輪島市からの依頼を受け、同市内避難所への巡回支援を実施。

6月30日、石川県での活動終了を迎える。

1.5次避難所の様子（5月～6月）

■5月・6月に「1.5次避難所」内で活動していた支援チーム

- 保健師（5月末撤退）
- 看護協会（5月末撤退）
- DWAT
- 栄養士会
- 全国経営協（介護職員）
- MSW
- ケアマネ協会（オンコール）
- リハセン（オンコール）

この期間の避難者数の推移

- ・5月1日 メイン65名 サブ34名
- ・5月15日 メイン58名 サブ30名
- ・6月1日 メイン50名 サブ17名
- ・6月15日 メイン40名 サブ5名
- ・6月26日 サブ34名（サブへ統合）
- ・6月29日 サブ30名（活動最終日確認）



▲退所後の歩行器の使用に関する調整の様子



▲サブアリーナへの引っ越しの様子

1.5次避難所のDWAT活動体制について（5月～6月）

- 5月の活動体制：2県 4名体制
- 6月の活動体制：2県 2～3名体制

| | |
|--------|---------|
| 石川DWAT | ぐんまDWAT |
|--------|---------|

- ・全体調整 ・なんでも相談 ・アセスメント（メイン・サブ）
- ・退所に向けた状況確認 ・支援情報整理

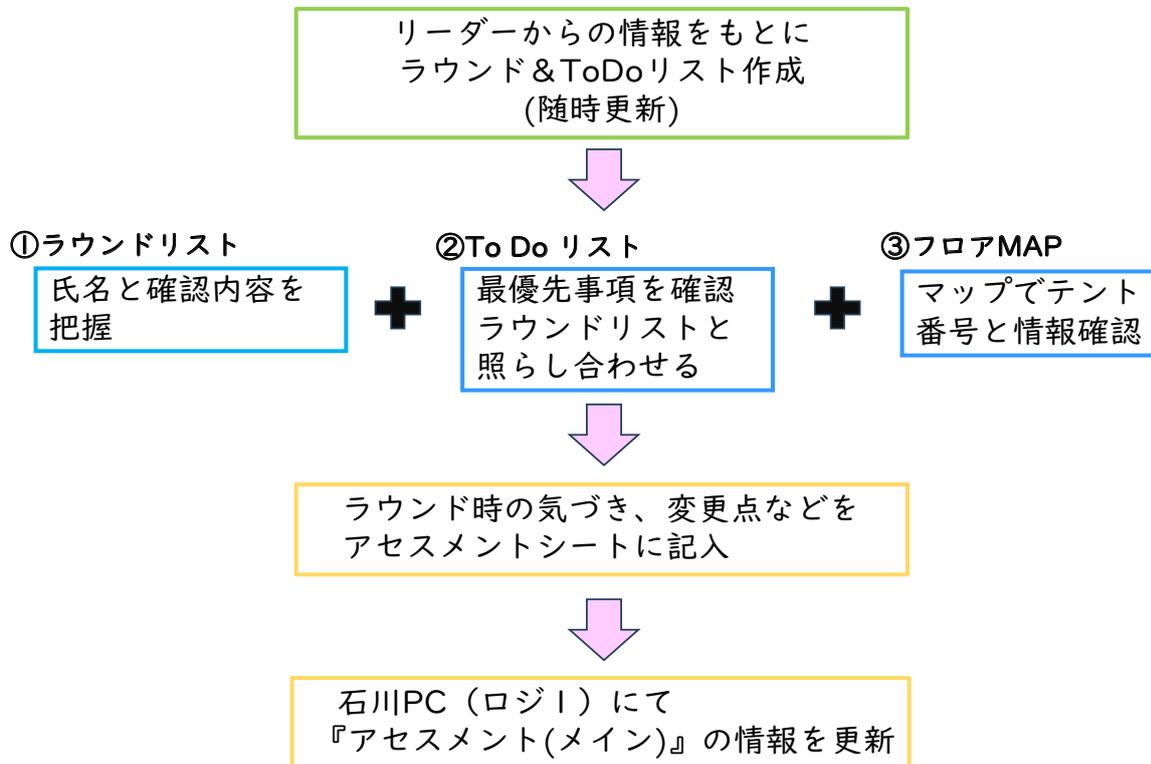
この期間のDWAT活動で求められたもの

- 4月まで4県10名体制で行っていたDWAT活動を5月から2県体制で行うための活動調整。
- ロジ業務の石川DWATへの引継ぎ。
- 6月末の輪島巡回。



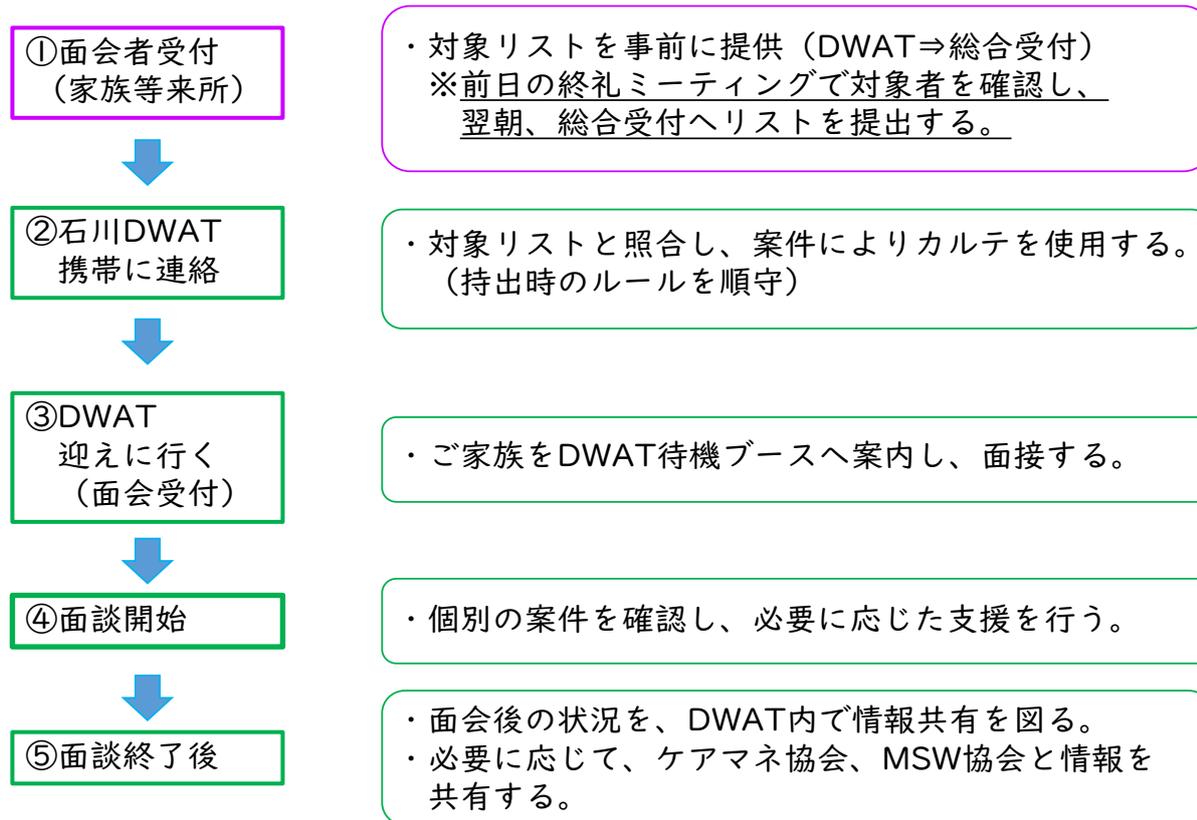
▲MSW・リハセンとの情報共有 ▲避難者・ご家族との状況確認 ▲ロジ業務の引継ぎ

◆要配慮者アセスメント（ラウンド）の業務フロー



※昼食・夕食・体操の前後にラウンドすると会える可能性が高い

◆避難者への面会对応に関する流れ



■輪島市への巡回型支援の様子 (5月)



▲輪島市役所での情報共有



▲避難所の様子 (河井小学校)



▲避難所への巡回支援



▲避難所の様子 (輪島中学校)

■ DWAT活動の収束・チーム撤退へ向けた調整の様子



▲ 輪島市内避難所への巡回（6月）



▲ 地元の活動団体と合同アセスメント



▲ 統合した避難所での支援対象者確認



▲ 地元の活動団体への引継ぎ

■ この期間を活動して

- 石川DWATクレド【誠実・信頼・謙虚・連携・地元主体・思いやり・心を一つに】をぐんまDWATも大切にしながら最後まで活動を行った。
- 退所に向けた進捗状況の確認が支援者間で活発に確認される中で、避難者本人の気持ちに寄り添いながら、地域の福祉資源等への繋ぎや、本人と親族・関係者等を巻き込んだ情報共有の場が重要。
- 石川DWATの活動体制等の状況より、地元石川DWATの支援体制が整うまでには一定の時間を要するようになった。



▲ なんでも相談



▲ 仮設住宅や罹災証明等の手続き支援



▲ 全体会議（本部会議室）の様子



▲ 地元の活動団体と合同の退所支援

● 5月の活動者の声

| | |
|-------|-----------------|
| 所属団体 | ぐんま子育て支援センター連絡会 |
| 所属機関 | 新町かぜいろこども園 |
| 活動者氏名 | 鹿野 彩香 |



◆活動に参加して

私が活動した5月の大型連休中は、派遣県の縮小や石川DWATの休息期間があり、群馬DWAT3名体制でした。退所に向けて支援していく中で、家庭内の状況や仮設住宅の問題など個人では解決が難しい課題を抱えている方が多く、他機関と連携して支援していく大切さを感じました。

私自身初めての派遣で、支援体制はポジション固定型から兼務型にシフトしたタイミングでしたが、Todoリストを作成するなど支援に漏れがないように留意しながら活動させていただきました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

避難者に対しての話しかけ方や、状況に応じて連携を図る支援団体を把握しておく必要があると考えます。研修で実際の様子や支援団体の特徴などを学び、訓練で実践することで自分の知識や視野を広げると、実際の活動場面で落ち着いて対応できると感じました。

また、チーム員同士での連携も重要だと考えます。コミュニケーションを円滑に行い、最善の支援を考える上でも、話し合いをしやすい環境など顔の見える関係づくりは必要だと感じました。

| | |
|-------|--------------|
| 所属団体 | 群馬県介護支援専門員協会 |
| 所属機関 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 活動者氏名 | 金子 正人 |



◆活動に参加して

私が活動した5月下旬は、1.5次避難所から次の行き先が決まる方が増え、閉鎖に向けた動きが加速された時期でした。他県のDWATは5月の連休前に順次撤退をしていたため、以降は石川と群馬の2県での活動となりました。

以前はそれぞれの県で役割分担をしていましたが、石川と群馬で協力しながら業務を進めました。また限られた人数になるため、ToDoリストやラウンドリストを活用し、被災者への寄り添い支援を目指しました。

ロジスティクス業務を石川DWATに引き継ぐにあたり、今まで以上に石川DWATクレド【誠実・信頼・謙虚・連携・地元主体・思いやり・心を一つに】をぐんまDWATも大切にしながら活動を行いました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

ToDo・ラウンドリスト、避難者への面会对応に関する流れなど、今回の支援で取り組んだ事を、次回で活かせるようにしっかりとマニュアル化しておく事が大切だと考えます。

研修会でロールプレイング等を行い、様々な事例に対応できるようにしておくこと。また他支援団体や行政などと円滑に連携が図れるように、日頃から合同で研修会や訓練を重ね、お互いに【顔の見える関係】を作っていく事も大切だと考えました。

●6月の活動者の声

| | |
|-------|-----------------|
| 所属団体 | 群馬県老人福祉施設協議会協議会 |
| 所属機関 | 居宅介護支援事業所ホピ園 |
| 活動者氏名 | 中村 洋平 |



◆活動に参加して

私が活動した6月上旬は1.5次避難所運営が新たなフェーズへ移行行くタイミングとなり、要配慮者の心情や進展状況に寄り添いつつ、メインアリーナの閉所にかかるアナウンス時期の検討及びこれまでのアセスメントで抽出された情報などを加味したサブアリーナ・シェルター・2次避難所への移動に係る各支援団体間との連携・調整が求められていました。

よって、石川DWATとともに環境変化に応じた福祉的な課題を有する方の生活の帯が途切れいなくようにTODO・ラウンドリストなどのツール用い刻々と変わる状況にチームとして柔軟に対応する視点と情報整理及び伝達の在り方などを学ぶことができました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

発災直後から閉所に至るまでに移行していく各フェーズ期において魚の目で捉えながら人・物資・情報がどのように繋がリマッチングさせていくのかという学びを深めること
つぎにDWATとしてアセスメント・モニタリング活動において単に情報を集めるだけではなく、得た情報を分析して関連する他の支援団体との連携・対応に結び付けられるように、ラウンド・相談対応の折に言葉の投げ方への工夫や情報を分析する実践力を高めるシュミレーション研修や訓練を重ねていくことが大切だと考えます。

| | |
|-------|---------------|
| 所属団体 | 群馬県精神保健福祉士会 |
| 所属機関 | 地域包括支援センターつのだ |
| 活動者氏名 | 高橋 沙織 |



◆活動に参加して

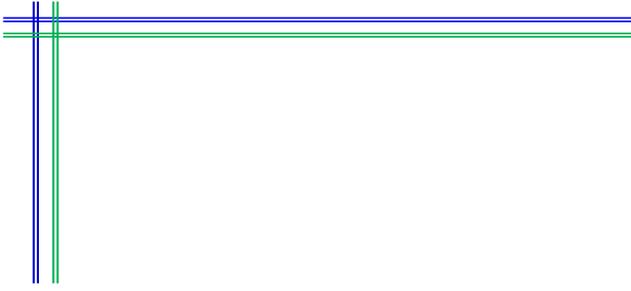
私が活動した6月下旬は、避難者の介護度に応じ分けられていたエリアが1つに統合され、DWATが主に担当していたエリアの閉鎖に伴い、活動が収束する時期でした。避難所内の変化による避難者の不安も大きく、今まで繋いできた関りが途切れないう、次の支援団体への丁寧な引継ぎを心掛け、活動しました。変化が多い中、今後の動向や考え、方向性、連携・協働にも配慮し、避難所全体と足並みが揃う活動を意識しました。

また、負担が集中する石川DWATが本来の役割を発揮できるよう、ロジスティクス機能を担いつつ、地元への寄り添いを大切にしました。

◆平時から取り組んでおくべきこと

活動の中では、自分の専門外の知識や意見を求められることも多く、対応の難しさを感じる場面も多々あります。自分一人で解決することは出来ないからこそ、日頃から、様々な専門職との連携や他メンバーと相談し合える関係性を構築しておくことが大切だと、改めて実感しました。

また、平時から研修や訓練を通じて、災害や備えに対する意識を継続させること、災害時に求められる支援者の心構えや役割を理解しておくことが重要であり、自分の職場でも活かし、学びを深めていくことができると感じます。



支援活動を振り返って

支援報告会の開催趣旨と概要

令和6年能登半島地震における災害派遣福祉チーム（DWAT）の活動は、災害福祉支援ネットワーク中央センターの調整により、47都道府県の全てのDWATが支援活動に従事した。

活動地域も、被害の大きかった石川県北部の6市町（七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町）での活動のほか、金沢市に設置された「1.5次避難所」における活動も求められ、長期化する避難生活を支えるためにDWATが被災地、被災者に寄り添っていった。

群馬県災害派遣福祉チーム（ぐんまDWAT）は、1月の「1.5次避難所」開設時より支援に携わり、DWAT活動全体が収束・撤収となる6月末まで、地元・石川DWATを支えながら、要配慮者の避難生活を支えていった。

石川DWATの活動に伴走してきた6カ月の活動を振り返るとともに、被災地へ派遣された群馬県災害派遣福祉チーム（ぐんまDWAT）の活動内容を全てのチーム員で共有し、活動への理解を深めるとともに、被災地の状況（被災地域や避難所の状況、保健医療福祉活動チームの活動状況）を参加者へ伝えることにより、平時から災害に備えてどのような取り組みが必要なのかを改めて考える機会として、報告会を開催した。

『能登半島地震に伴う群馬県災害派遣福祉チーム活動報告会』

次 第

日程：令和6年9月3日（火）

18：00～20：00

会場：群馬県庁2階・ビジターセンター

開会挨拶

群馬県健康福祉部長 中島高志

被災地代表挨拶

石川県健康福祉部厚生政策課長 蟹由宗臣氏

報告

能登半島地震におけるDWAT活動の概要

活動報告

- ・1月の活動概要～立ち上げ期
- ・2～3月の活動概要～地域リーダー制
- ・4月の活動概要～支援の縮小
- ・5～6月の活動概要～石川県への引継

総括質疑・意見交換

閉会挨拶

群馬県社会福祉協議会長 川原武男

■活動報告会の様子



▲開会挨拶（県健康福祉部・中島部長）



▲能登半島地震でのDWAT活動の概要説明



▲ぐんまDWATによる実践報告



▲1月～3月の活動報告



▲参加者の様子



▲4月～6月の活動報告



▲質疑応答



▲閉会挨拶（県社協・川原会長）

■ その後の避難所の様子（閉所期）



▲ 輪島市内の避難所の様子



▲ 1.5次避難所の支援状況の確認



▲ 各種物資の整理



▲ 避難者の退所状況の確認

■ 石川DWATの平時の活動への関り



▲ 段ボールベッドの組み立て訓練



▲ ラピッドアセスメントの訓練



▲ 全体ミーティングの様子



▲ 訓練参加メンバー



震災の影響を受けた地域の様子

令和6年能登半島地震災害の被害の概要

(令和7年3月末時点)



うち災害関連死 321人



重傷391人 / 軽傷876人



全壊・半壊・一部破損・
床上浸水・床下浸水



立入が困難な一部の地区を除き、
応急復旧がおおむね終了
立入困難地点については、道路啓開後原則3日以内に応急復旧予定



※建物倒壊や土砂崩れ、
電気未復旧などにより
早期復旧が困難な地区を除く

石川県ホームページより転載

令和6年能登半島地震災害の被害の様子



石川県ホームページより転載





1月の活動派遣者

◆先遣隊

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|-------|----------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |

◆活動チーム（リエゾン）

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|-------|---------------|
| 2 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 3 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 4 | 村上 忠明 | 特別養護老人ホーム永光荘 |
| 5 | 石倉 敦也 | サニーズマーケット |
| 6 | 渡辺 匠海 | 群馬県社会福祉協議会 |
| 7 | 小川 晋平 | 群馬リハビリテーション病院 |
| 8 | 長坂 勝利 | 相談支援事業所ゆりのき |
| 9 | 荒田 剛志 | 障害者支援施設さくら園 |

2月の活動派遣者

◆活動チーム

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|---------------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |
| 2 | 堀口 佳祐 | 新町かぜいろこども園 |
| 3 | 角田 寛明 | 社会福祉法人邦知会 |
| 4 | 南雲 由夏 | アクティビティサポート |
| 5 | 篠原 智哉 | 訪問看護ステーション デューン |
| 6 | 高橋 翼 | 障害者支援施設 あけぼのホーム |
| 7 | 森川 康弘 | 特別養護老人ホーム小野子ヒルズ |
| 8 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 9 | 吉岡 沙織 | 妙義もみじ学園 |
| 10 | 陸川 恭太 | 児童養護施設こはるび |
| 11 | 西窪 信二 | 特別養護老人ホーム ハーモニー広沢 |
| 12 | 青木 優一 | 群馬大学医学部附属病院 |
| 13 | 宇佐美 里佳 | 特別養護老人ホーム明嶺荘 |
| 14 | 奈良場 彬 | 障害福祉サービス事業所エステル |
| 15 | 澁澤 暁子 | 県立障害者リハビリテーションセンター |
| 16 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 17 | 藤井 友和 | 障害者支援施設 誠光荘 |
| 18 | 服部 弘 | 特別養護老人ホーム ユートピア広沢 |
| 19 | 小川 晋平 | 群馬リハビリテーション病院 |
| 20 | 女屋 佐登美 | 特別養護老人ホームGreen Rose |
| 21 | 高橋 沙織 | サンビオーゼ |
| 22 | 長坂 勝利 | 相談支援事業所ゆりのき |
| 23 | 金子 正人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 24 | 吉井 郁美 | 前橋赤十字病院 |

3月の活動派遣者

◆活動チーム

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|---------------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |
| 2 | 村岡 稔久 | 救護施設 緑荘 |
| 3 | 吉岡 沙織 | 妙義もみじ学園 |
| 4 | 原澤 大輔 | ライフサポートのどか |
| 5 | 須田 真希子 | ゆたか保育園 |
| 6 | 堀口 公仁 | 障害者支援施設 都学園 |
| 7 | 中村 洋平 | 居宅介護支援事業所ホピ園 |
| 8 | 高岸 洋介 | 群馬県社会福祉協議会 |
| 9 | 石関 浩幸 | 障害者支援施設 イシノ療護園 |
| 10 | 阿久澤 隆人 | 障害者支援施設 天啓園 |
| 11 | 西窪 信二 | 特別養護老人ホーム ハーモニー広沢 |
| 12 | 石倉 敦也 | サニーズマーケット |
| 13 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 14 | 原沢 潤 | 障害者支援施設グレイスホーム |
| 15 | 荻野 秀樹 | 利根中央病院 |
| 16 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 17 | 篠原 智哉 | 訪問看護ステーション デューン |
| 18 | 藤井 友和 | 障害者支援施設 誠光荘 |
| 19 | 宇佐美 里佳 | 特別養護老人ホーム明嶺荘 |
| 20 | 千明 久子 | 榛東村社会福祉協議会 |
| 21 | 山田 拓哉 | 高崎総合医療センター |
| 22 | 長坂 勝利 | 相談支援事業所ゆりのき |
| 23 | 渡辺 匠海 | 群馬県社会福祉協議会 |
| 24 | 本田 貴士 | 障害者支援施設あけぼのホーム |
| 25 | 女屋 佐登美 | 特別養護老人ホームGreen Rose |
| 26 | 三井 紀享 | 渋川医療センター |

4月の活動派遣者

◆活動チーム

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|---------------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |
| 2 | 原澤 大輔 | ライフサポートのどか |
| 3 | 山下 奉紀 | 養護老人ホーム サンロイヤル広沢 |
| 4 | 石倉 敦也 | サニーズマーケット |
| 5 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 6 | 川島 啓 | 救護施設 太陽の家 |
| 7 | 高橋 沙織 | 地域包括支援センターつのだ |
| 8 | 吉岡 沙織 | 妙義もみじ学園 |
| 9 | 荒井 智裕 | 特別養護老人ホーム 大泉園 |
| 10 | 山口 栞 | ゆたか保育園 |
| 11 | 村岡 稔久 | 救護施設 緑荘 |
| 12 | 堀口 佳祐 | 新町かぜいろこども園 |
| 13 | 宇佐美 里佳 | 特別養護老人ホーム明嶺荘 |
| 14 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 15 | 藤井 友和 | 障害者支援施設 誠光荘 |
| 16 | 半田 康人 | 特別養護老人ホーム川場春光園 |
| 17 | 女屋 佐登美 | 特別養護老人ホームGreen Rose |
| 18 | 金子 正人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 19 | 小川 晋平 | 群馬リハビリテーション病院 |
| 20 | 藤巻 かおり | 障害者支援施設めぐみの里 |
| 21 | 陸川 恭太 | 児童養護施設こはるび |
| 22 | 森川 康弘 | 特別養護老人ホーム小野子ヒルズ |

5月の活動派遣者

◆活動チーム

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|---------------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |
| 2 | 角田 寛明 | 社会福祉法人邦知会 |
| 3 | 石倉 敦也 | サニーズマーケット |
| 4 | 中村 洋平 | 居宅介護支援事業所ホピ園 |
| 5 | 藤井 友和 | 障害者支援施設 誠光荘 |
| 6 | 高橋 翼 | 障害者支援施設 あけぼのホーム |
| 7 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 8 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 9 | 原澤 大輔 | ライフサポートのどか |
| 10 | 佐藤 智昭 | 昭和村社会福祉協議会 |
| 11 | 荒田 剛志 | 障害者支援施設さくら園 |
| 12 | 渡辺 匠海 | 群馬県社会福祉協議会 |
| 13 | 鹿野 彩香 | 新町かぜいろこども園 |
| 14 | 堀口 公仁 | 障害者支援施設 都学園 |
| 15 | 宇佐美 里佳 | 特別養護老人ホーム明嶺荘 |
| 16 | 佐俣 雅和 | 公立富岡総合病院 |
| 17 | 阿久津 絢香 | 相談支援事業所という |
| 18 | 春原 幹男 | 障害者支援施設 イシノ療護園 |
| 19 | 須田 真希子 | ゆたか保育園 |
| 20 | 関 淳也 | 妙義もみじ学園 |
| 21 | 金子 正人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 22 | 女屋 佐登美 | 特別養護老人ホームGreen Rose |
| 23 | 吉岡 沙織 | 妙義もみじ学園 |

6月の活動派遣者

◆活動チーム

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|-------|----------------|
| 1 | 南川 基治 | 特別養護老人ホームやまつつじ |
| 2 | 石倉 敦也 | サニーズマーケット |
| 3 | 千明 久子 | 榛東村社会福祉協議会 |
| 4 | 中村 洋平 | 居宅介護支援事業所ホピ園 |
| 5 | 原澤 大輔 | ライフサポートのどか |
| 6 | 荒田 剛志 | 障害者支援施設さくら園 |
| 7 | 星野 駿人 | 特別養護老人ホーム桜花苑 |
| 8 | 関 芳典 | はるな郷 生原ホーム事業所 |
| 9 | 堀口 佳祐 | 新町かぜいろこども園 |
| 10 | 高橋 沙織 | 地域包括支援センターつのだ |

災害福祉支援ネットワーク中央センターの依頼によるアドバイザーの派遣

◆アドバイザー

| No. | 氏名 | 所属 |
|-----|-------|------------|
| 1 | 鈴木 伸明 | 群馬県社会福祉協議会 |

※令和6年1月6日～6月30日



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

| ▶ 保険金額 | | 基本補償(A型) | 見舞費用付補償(B型) |
|------------|-------------------------|-----------|---|
| 賠償事故に対応 | 身体賠償(1名・1事故) | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 |
| | 財物賠償(1事故) | 2,000万円 | 2,000万円 |
| | 受託・管理財物賠償(期間中) | 200万円 | 200万円 |
| | うち現金支払限度額(期間中) | 20万円 | 20万円 |
| | 人格権侵害(期間中) | 1,000万円 | 1,000万円 |
| | 身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中) | 1,000万円 | 1,000万円 |
| お見舞い等の各種費用 | 徘徊時賠償(期間中) | 2,000万円 | 2,000万円 |
| | 事故対応特別費用(期間中) | 500万円 | 500万円 |
| | 被害者対応費用(1名につき) | 1事故10万円限度 | 1事故10万円限度 |
| | 傷害見舞費用 | | 死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円 |

| ▶ 年額保険料(掛金) | |
|-------------|----------------|
| 定員 | 基本補償(A型) |
| 1~50名 | 35,000~61,460円 |
| 51~100名 | 68,270~97,000円 |
| 以降1名~10名増ごと | 1,500円 |

見舞費用付補償(B型)

基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円

② 個人情報漏えい対応補償 ③ 施設の什器・備品損害補償

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 医務室の医療事故補償
- オプション3 ● 看護職の賠償責任補償
- オプション4 ● 借用不動産賠償事故補償
- クレーム対応サポート補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 職員の労災上乗せ補償
- ② 役員・職員の傷害事故補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料(1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

| 保険金の種類 | | プラン | 基本プラン | 天災・地震補償プラン | |
|---------|----------------------|--------------|--------------|------------|--|
| ケガの補償 | 死亡保険金 | | 1,040万円 | | |
| | 後遺障害保険金 | | 1,040万円(限度額) | | |
| | 入院保険金日額 | | 6,500円 | | |
| | 手術保険金 | 入院中の手術 | | 65,000円 | |
| | | 外来の手術 | | 32,500円 | |
| | 通院保険金日額 | | 4,000円 | | |
| | 地震・噴火・津波による死傷 | | × | ○ | |
| 賠償責任の補償 | 賠償責任保険金 (対人・対物共通) | | 5億円(限度額) | | |
| | | 年間保険料 | 350円 | 500円 | |

商品パンフレットは
コチラから



(ふくしの保険
ホームページ)

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)